巻頭言

活性化のため組織的充実を



財団法人日本ハンドボール協会
常務理事
江成　元伸

㈶日本ハンドボール協会は、都道府県ハンドボール協会、各全国ハンドボール連盟より構成されております。日本ハンドボール界の活性化も、これらの構成団体の活性化なしには考えられません。従来はこれらの連絡網が、日本協会、各ブロック連盟、各全国連盟、各都道府県協会から各チームへと流れておりました。この間に情報伝達が、目詰まりを起こしたり、変質してしまったりしていたのではないでしょうか。

しかしながら、現在の社会情勢では、交通手段、情報伝達手段は、航空機、新幹線、FAX、さらに電子メールの利用と、格段に日本の国土は狭くなっております。このような状況の下、ハンドボール界でも情報伝達方法を考え直していく必要があるのではないでしょうか。また、本年の世界選手権開催を契機に、国際的な対応の重要性も高まってきています。組織的にも、IHF組織との対応が迫られています。この点に関しては、日本協会としても対応に着手したところであります。

日本協会では、ここ数年各加盟団体の事務取扱責任者会議と理事長会議を開催いたしました。これらの会議は、日本協会としての定められた会議ではありませんが、日本協会としての施策、方針が従来より正確に早く伝わり、また、各加盟団体の皆様のご意見をも賜ることができ、成果を上げることができました。当然のことながら、各加盟団体にご負担をおかけしていることも事実です。しかしながら、時代に即した情報伝達手段にそれなりの費用負担は当然のことながら出てくることも確かです。

日本協会と致しましても、前述のごとくIHFとの連携を密にし、情報収集に努力を致し、各加盟団体に日本協会施策とともに伝達していく組織作りに努力をして参ります。

IHFでもインターネットを通じホームページを開設しております。我が国でも各地区学生連盟、各都道府県協会や個人が情報公開しております。日本協会もインターネット委員会を設け、ホームページを発信したところです。

各加盟団体におかれましても、組織的充実を図られ、日本協会と連携をとりながら今後さらに各事業の活性化をめざしていきたいと考えております。このことが日本ハンドボール界の活性化につながると確信しております。

協会だより

平成9年度10月度 常務理事会

日　時　10月2日(木)
　13時00分～14時45分
場　所　KKRホテル東京会議室
出席者　中澤専務理事、
　常務理事6名、監事、
　参事各1名、事務局2名

1　'97男子世界選手権大会の日本協会関連決算及び残務整理現況について

収入状況の概略報告があり、IHFに対する追加交付金の交渉が決まりしだい決算をしめるとの報告があった。

決算で見込まれる余剰金の使途について報告があり、他の施策があれば検討することとした。

2　平成9年度（第49回）全日本総合選手権大会について

(1) 女子出場枠について

日本リーグチーム	9
全日本実業団連盟	1
全日本教職員連盟	1
全日本学生連盟	4
日本協会推薦（ジャパンオープン）	1
合計	16

前年大会での成績を考慮して、全日本学生連盟の枠を4とすることで了承した。

(2) 男女開催要項について

大会要項男子の部（案）の報告。参加料1チーム10万円。試合会場内のビデオ撮影について出場チームは1台を無料とし、2台目より有料。当日受け付けで申請。営業目的の撮影は、別途定めることとした。

女子部の要項について了承した。兵庫県協会の来年度50回記念大会の男女開催希望について検討することとした。

(3) 男子の部大会予算について

実行委員会を結成して準備に入る報告があり了承。

(4) その他

女子ジュニア世界選手権大会8位入賞の記念品贈呈を大阪国体時に実施することとした。

日本リーグオーナー会議、及び創立60周年記念事業について次回検討。

NHK国体放映の解説者に蒲生監督を了承。

木野常務理事より退任の挨拶。

報告事項

1　第52回国民体育大会組み合わせ抽選結果について報告

2　インターネット委員会報告

3　IHF競技集計システムに関して、今後の活用等について次回検討。

4　西日本小学生大会を平成10年2月22日(日)岡山県にて開催。この大会を西日本・中国ブロック小学生大会として実施。

5　ジャパンカップ報告

6　平成9年度登録について報告

7　ケーブルテレビについてメイスンと契約、スカイAで世界選手権大会・熊本の放映を開始した。日本リーグTVK放映の対戦カード報告。

8　平成9年度叙勲で清水正氏の勲五等双光旭日章受章決定。

清水　正氏、勲五等双光旭日章を受章

去る11月3日、清水正氏は、永年に亘る日本ハンドボール協会へのご功績が認められ、勲五等双光旭日章を受章されました。

清水氏は、昭和36年山梨県ハンドボール協会から推され、日本ハンドボール協会理事に就任されて以来、平成7年まで通算34年の長きに亘り理事及び常務理事に就任、日本協会役員として唯一切れ目なく連続して役員を務められました。

理事に就任されるやいなや、日本協会の組織の整備・拡充、選手及び指導者の競技技術と資質の向上に貢献されました。また、昭和47年全国中学校大会、昭和63年全国小学校大会の創設に尽力される一方、全日本実業団連盟、全日本教職員連盟の創設にもご尽力なされました。さらに昭和51年より始まった日本ハンドボールリーグ発足にも貢献なされました。

昭和53年、日本ハンドボール協会が財団法人化することが決定されるや、法人設立発起人会に参画され、3年間のご努力により昭和56年3月に文部大臣より設立が認可されております。

清水氏はこのほかにも、審判員の育成、全国高等学校体育連盟ハンドボール部においても多大な貢献をなされております。

この度の栄誉に対し心よりお喜び申し上げると共に、今後益々のご発展とご健勝を祈念いたします。



清水　正氏

第52回国民体育大会

天皇杯・皇后杯ともに地元
大阪が史上初の2連覇

第52回国民体育大会、なみはや国体ハンドボール競技は、10月26日から30日まで、堺市家原（えばら）大池体育館、高石市府立臨海スポーツセンターなどで熱戦が繰り広げられた。注目の天皇杯、皇后杯は、各種別で快進撃を続け、すべての種別で決勝に駒を進めた地元大阪が、昨年に続き国体史上初の2年連続獲得となった。

成年男子で、大阪は初戦で苦しみながらも延長で岩手を破り勢いに乗った。この勢いで東京（中村荷役）を準々決勝で破り、準決勝では試合巧者の香川選抜をも退け、決勝へと駒を進めた。決勝では、湧永・日新連合軍の広島選抜に奮戦するも敗れ去った。

成年女子では、大阪（大和銀行）が昨年に続き快進撃をした。また行く手を阻むと見られた広島（イズミ）が1回戦で香川に敗れる波乱を見せ、大和銀行を楽にした。準決勝では熊本（オムロン）を破り、決勝では好調の三重（ジャスコ）を逆転で下し、昨年に続き国体2連覇を飾った。

少年男子で大阪は、1回戦37対5の快勝で波に乗った。2回戦ではインターハイを制した北陸高校と対戦したが、全員がよく動き、大きさで上回る北陸を前半の速攻で破った。反対側ゾーンでは、有力候補の全神奈川、選抜優勝の久留米工大付属主体の福岡選抜が次々と敗れる中、準決勝ではこれも強豪チームの茨城選抜に快勝した。決勝でも山口選抜を退け優勝を飾った。

少年女子の部では大阪が第1シードであった。岡山選抜、岐阜選抜と順調に勝ち上がり、準決勝では強豪チームの福井商業と対戦した。この試合を25対16で無難にこなし、決勝へと駒を進めた。逆ゾーンからは、予想通りに京都選抜が決勝に駒を進めてきた。決勝では、お互い相手を知り尽くした同士の対戦で、お互いに攻め手を欠く戦いとなったが1点差で京都が優勝を飾った。

天皇杯順位	
1位	大阪府
2位	山口県
3位	三重県
4位	茨城県
	福井県
6位	京都府
	広島県
8位	千葉県
	香川県

皇后杯順位		
1位	大阪府	
2位	京都府	
3位	三重県	
4位	福井県	
	石川県	
6位	熊本県	
	山口県	
8位	香川県	茨城県
	岐阜県	大分県
	富山県	栃木県
	山梨県	千葉県

■成年男子

《準決勝》

大阪府 28（12－14 / 16－8）22 香川県

準々決勝で実業団チームを破り勢いに乗ったチーム同士の一戦。試合巧者の香川は、コンビプレーで着実に得点を重ね、若さある大阪は、ステップ・ロングシュートで対抗し一進一退の攻防が続く。前半20分、大阪が退場者を出し、これにつけ込み香川は2点のリードを保ち前半を折り返す。後半立ち上がり、大阪は10番下川選手の連続得点で一気に同点とし試合の流れを引き戻した。後半14分、大阪・鎌塚選手の速攻でリードすると、8番萩原選手のステップシュート等攻守がかみ合い一気に力を爆発させ試合を決めた。

地元大阪府の大声援の中、香川県の健闘もあり好試合であった。

広島県 30（12－11 / 18－13）24 愛知県

全日本メンバー5人が揃う大変豪華な顔ぶれの試合であった。立ち上がり三度の7mスローを得た愛知がリードを保つ試合展開となったが、中盤から呼吸の合いだした広島選抜が20分までに同点とし、前半終了間際、愛知の退場者の穴をつき逆転して前半を折り返す。後半出だし、広島が速攻による4連続得点で勢いに乗り、多彩な攻撃でリードを広げていった。愛知も、4番冨本、10番末岡のシュートで対抗するが、波に乗った広島選抜が30対24で試合を決めた。大変スピーディかつ迫力のあるゲーム内容であった。

《3位決定戦》

愛知県 28（13－10 / 15－13）23 香川県

体格に勝る愛知と、その差をフットワークでカバーする香川の3位決定戦。前半、立ち上がり愛知は4番冨本選手の切れのあるロング・ステップシュートで加点すれば、香川はサイド・ポストのコンビプレーで反撃。前半22分に香川の連続速攻で同点（9対9）に追いついたが、愛知も3連続速攻等で、愛知3点リードで前半を終了した。後半、香川は攻守にわたり粘り強く愛知を追い上げるものの、実力で勝る愛知はジリジリと点差を広げ、善戦する香川を押し切った。



《決勝》

広島県 38（15－9 / 23－7）16 大阪府

得点	[大阪]	番号	番号	[広島]	得点
0	倉　昌宏	1	1	多田恵久	0
0	安井裕貴	2	2	森山　透	3
3	竹下浩雄	3	3	水谷和嘉	4
0	吉田晴也	4	4	小沢勝利	2
2	小林貴幸	5	5	堀田敬章	3
2	奥　聡	6	6	山口　修	6
0	馬木純也	7	7	中山　剛	4
5	萩原康仁	8	8	杉山裕一	3
1	北田　忍	9	9	源内利之	7
2	下川真良	10	10	田中雅彦	5
1	鎌塚和彦	11	11	高田浩志	1
0	福島剛志	12	12	坪根敏宏	0
16		計			38

大声援のもと、大阪10番下川のシュートで試合が始まった。前半10分まで、五分の展開であったが、地力に勝る広島が徐々に得点を重ね、前半15対9で折り返した。後半、出だしから広島が高く分厚いディフェンスで大阪を圧倒し、速攻や体を活かした多彩な攻撃で点差を広げていき38対16で圧勝した。強豪チームを破り、波に乗る大阪が豪華メンバーを揃えた広島にどこまで食い下がるか注目の試合であったが、すべてに勝る広島が優勝を決めた。

■成年女子

《準決勝》

三重県 22（11－9 / 11－12）21 石川県

試合結果

【成　年　男　子】

日	回戦	対戦	結果
26日	1回戦	石川県（全石川）－熊本県（本田技研熊本）	25（11－8、14－12）20
26日	1回戦	北海道（エルムクラブ）－岩手県（岩手選抜）	31（17－19、14－15）34
26日	1回戦	岐阜県（岐阜教員）－山口県（K.K.トクヤマ）	17（7－21、10－22）43
26日	1回戦	宮城県（宮城選抜）－兵庫県（兵庫選抜）	27（16－12、11－17）29
27日	2回戦	東京都（中村荷役）－石川県・熊本県の勝者	22（9－7、13－8）15
27日	2回戦	北海道・岩手県の勝者－大阪府（大阪選抜）	27（11－11、13－13、1－1、2－3）28
27日	2回戦	香川県（香川選抜）－岐阜県・山口県の勝者	38（19－9、19－12）21
27日	2回戦	宮城県・兵庫県の勝者－埼玉県（大崎電気）	13（6－21、7－16）37
28日	準々決勝		17（5－12、12－11）23
28日	準々決勝		27（13－11、14－11）22
29日	準決勝		28（12－14、16－8）22
26日	1回戦	山梨県（山梨選抜）－佐賀県（佐賀選抜）	27（12－20、15－17）37
26日	1回戦	群馬県（群馬選抜）－奈良県（奈良選抜）	30（17－14、13－13）27
26日	1回戦	神奈川県（全神奈川）－富山県（全富山）	21（10－14、11－14）28
26日	1回戦	沖縄県（沖縄選抜）－京都府（京都クラブ）	22（8－13、14－11）24
27日	2回戦	愛知県（大同特殊鋼）－山梨県・佐賀県の勝者	28（17－6、11－11）17
27日	2回戦	群馬県・奈良県の勝者－三重県（本田技研）	11（5－14、6－21）35
27日	2回戦	福島県（福島クラブ）－神奈川県・富山県の勝者	34（13－14、21－14）28
27日	2回戦	沖縄県・京都府の勝者－広島県（広島県選抜）	12（7－14、5－18）32
28日	準々決勝		21（10－6、11－7）13
28日	準々決勝		26（11－16、15－14）30
29日	準決勝		24（11－12、13－18）30
30日	決勝		16（9－15、7－23）38
30日	3位決定戦	香川県－愛知県	23（10－13、13－15）28

【成　年　女　子】

日	回戦	対戦	結果
26日	1回戦	栃木県（日立栃木クラブ）－滋賀県（滋賀選抜）	35（17－8、18－7）15
26日	1回戦	三重県（ジャスコ）－宮崎県（全宮崎）	34（15－13、19－9）22
26日	1回戦	山梨県（シャトレーゼクラブ）－福島県（福島ムネタカ）	35（19－9、16－11）20
26日	1回戦	京都府（京都クラブ）－石川県（北國銀行）	11（5－14、6－19）33
27日	準々決勝		16（9－9、7－9）18
27日	準々決勝		18（6－15、12－10）25
28日	準決勝		22（11－9、11－12）21
26日	1回戦	熊本県（オムロン）－北海道（函館ホッパーズ）	48（24－3、24－5）8
26日	1回戦	茨城県（茨城選抜）－富山県（立山アルミ）	20（10－11、10－11）22
26日	1回戦	大阪府（大和銀行）－岩手県（岩手選抜）	38（18－11、20－10）21
26日	1回戦	香川県（香川県BK・TH）－広島県（広島イズミ）	20（12－10、8－8）18
27日	準々決勝		22（14－8、8－7）15
27日	準々決勝		34（13－7、21－5）12
28日	準決勝		23（11－12、12－16）28
29日	決勝		23（13－10、10－19）29
29日	3位決定戦	石川県－熊本県	31（17－7、14－14）21

日本リーグ勢同士の戦いが開始された。前半、石川はセットプレーの軸となる11番田中からのポストプレーで4点、一方、三重は速攻、カットイン、サイドシュートと、多彩な攻撃で中盤まで7対4でリード。石川は作戦タイム後、動きが良くなり、センターからのカットイン、7mスロー、速攻と3点連取し同点に追いつく。しかし、三重は、GK松尾の好守からの速攻で11対9と再びリードして折り返す。後半、互いのチームがポスト、ミドルシュートの点の奪い合いで一進一退の好ゲームを展開。防御も攻撃も同じ型（一線防御）（センタースリー）で、三重の11番土師、石川の2番上出のボールさばきは、観客をうならせた。勝負はラスト1分まで持ち込まれたが、石川は奮戦も空しく1点差の惜敗。三重が決勝戦に進出した。

大阪府　28（12−11 16−12）23　熊本県

大阪は地元の声援を受けての準決勝戦で、常に日本リーグでの手を知り尽くした対戦となった。立ち上がり大阪は田中、竹田で連取すれば、熊本も田中のミドルで得点を挙げ白熱戦となる。大阪は、20分過ぎまでに竹田、田中、藤浦らの活躍で4点差でリードするも熊本も宮本を中心とした足を使った攻撃で25分より3点連取し12対11まで追い上げハーフタイムとなる。後半も大接戦を演じ10分で大阪の2点のリードを竹田、久保、小俣らにより4得点を重ね徐々にリードを広げるも熊本も粘り強く食い下がる。終盤、竹田のミドル、ポスト等で5点差とし地元の期待にこたえた。

《3位決定戦》

石川県　31（17−7 14−14）21　熊本県

前半、石川は2番上出選手を中心に11番田中選手の好配球により、ポスト、サイドと相手のディフェンスを揺さぶり着々と得点を重ねる。一方、熊本は単調な攻撃を繰り返すのみでミスが目立った。後半に入っても、熊本は今一つ調子が出ずに思いきりの良いシュートが見られない。石川は途中出場の9番岡田選手が元気いっぱいのプレーを見せ、大量リードを奪う。残念だったのは両チームともにロングシュートが少なく盛り上がりに欠けた。また、両チーム合わせて12本という7mスローの多い試合であった。

《決勝》

大阪府　29（10−13 19−10）23　三重県

前半立ち上がり、三重は6番浦田（芳）選手のパスカットからの逆速攻で先取点を挙げる。その後、すぐに大阪は5番久保選手のサイドシュートで同点とするも、三重は5番浦田（万）選手（ロングシュート2本）、6番浦田（芳）選手（カットインシュート）、2番山形選手（サイドシュート）と4点連取して、5対1とリードした。大阪は6分に5番久保選手のサイドシュートを取るが、その後6分間は両チーム共に無得点で間があく。12分、大阪7番田中選手の活躍で徐々に差をつめて、19分には1点差とするが三重は11番土師選手のミドルシュートがよく決まり、三重の3点リードで前半を終了する。後半は、大阪11番山下（麗）選手のロングシュートから始まり、3点を取り序盤5分には、13対13と同点とした。その後、双方譲らず一進一退のゲーム展開がしばらく続き、大阪GK12番山下（美）選手の好守もあり、点差を広げて三重の追撃を振り切った。

得点	[三重]	番号	番号	[大阪]	得点
0	松尾香代	1	1	飛田季実子	0
2	山形雪子	2	2	山尾陽子	0
0	橋谷直美	3	3	西口貴子	1
0	佐々木麗香	4	4	小俣訓子	2
5	浦田万紀	5	5	久保幸江	4
2	浦田芳江	6	6	荒川裕子	0
2	辻賀奈子	7	7	田中美音子	13
6	池田奈美子	8	8	星　智和	0
1	松永恵美子	9	9	竹田ユリ	2
0	原田千恵子	10	10	藤浦美絵	6
5	土師基子	11	11	山下麗子	1
0	友貞由美	12	12	山下美智子	0
23		計			29



■少年男子

《準決勝》

大阪府　25（10−7 15−7）14　茨城県

地元の大声援を受けての準決勝となる。前半立ち上がりは両チームとも動きに固さが見られミスもみられる。大阪は内山のカットインシュート、阪のミドルシュート、中盤からは佐々木のシュートも決まりだす。一方、茨城も太田のロング、カットインシュート、北田、飯村のカットイン、サイドシュートで応戦するも、大阪のディフェンスに苦しむ。後半も茨城は攻めきれずリズムをつくれない時間帯が多く、大阪は後半9分までに3連続速攻、スカイプレー等で16対8と優位に試合を運ぶ。茨城は1、2回戦にみせたプレーが出せずにゲームが終わった感じであった。

山口県　21（11−11 10−8）19　千葉県

立ち上がり両チームとも緊張しているせいか動きが固く、なかなかリズムに乗れなかったが、5分過ぎより良く走るようになり白熱したゲームとなる。一進一退が続いたが、18分千葉・杉浦選手の目の覚めるようなステップシュートが入りリードを奪う。しかし、山口も前半終了間際に左腕岡本選手のサイドシュートで同点とした。後半に入り、5分過ぎ、右サイドから森本、松田と立て続けに得点した。しかし、山口・岡本の退場のスキをつき速攻で1点差になるも、そのあとペースを取り戻した山口がGKのファインプレーなどにより2点差で勝ち、決勝に進出した。

《3位決定戦》

茨城県　25（14−3 11−13）16　千葉県

関東勢同士の3位決定戦。体格を利した茨城に対し、その差を足でカバーする千葉の戦いぶりが試合の焦点となる。開始早々、茨城の7番北田選手のサイドシュート、3番飯村選手の速攻ミドルシュート等で4対0と先行。一方千葉は、茨城の大きな壁とGK1番地引選手の再三の好守により苦しい展開となる。12分過ぎまでに茨城は理想の形で得点を重ね11対2と点差を広げる。その後は両チームとも、ミスが目立ち、14対3で前半を折り返した。後半立ち上がり5分も、前半同様の流れであったが、5分以降、千葉は前に出てのディフェンスに切り替え2番キャプテン花尾選手、6番安部選手、8番杉浦選手らの得点でリズムをつかみ、茨城を必死に追い上げるも前半の得点差はいかんともしがたく茨城

試合結果

【少　年　男　子】

26日　1回戦（左）
- 福井県（北陸高校） 27（9－10／18－8）18 秋田県（秋田県選抜）
- 大阪府（大阪高校選抜） 37（19－2／18－3）5 北海道（函館選抜）
- 奈良県（奈良選抜） 17（11－16／6－10）26 沖縄県（沖縄選抜）
- 三重県（三重選抜） 15（6－11／9－15）26 茨城県（茨城選抜）

27日　準々決勝（左）
- 16（8－13／8－9）22
- 18（8－14／10－14）28

28日　準決勝（左）
- 25（10－7／15－7）14

29日　決勝戦・3位決定戦
決　勝
- 20（10－6／10－11）17

3位決定戦
- 茨城県 25（14－3／11－13）16 千葉県

28日　準決勝（右）
- 19（11－11／8－10）21

27日　準々決勝（右）
- 23（10－19／13－18）37
- 11（7－9／4－14）23

26日　1回戦（右）
- 福岡県（福岡選抜） 17（9－8／8－7）15 愛知県（愛知選抜）
- 京都府（京都選抜） 19（8－18／11－7）25 千葉県（千葉選抜）
- 岩手県（岩手選抜） 21（11－9／10－7）16 香川県（香川選抜）
- 山口県（山口選抜） 17（12－4／5－11）15 神奈川県（全神奈川）

【少　年　女　子】

26日　1回戦（左）
- 大阪府（大阪高校選抜）
- 岡山県（岡山選抜） 18（10－5／8－9）14 高知県（高知選抜）
- 宮城県（宮城選抜） 19（7－11／12－12）23 岐阜県（岐阜選抜）
- 山梨県（山梨選抜）
- 茨城県（茨城選抜）
- 和歌山県（和歌山選抜） 25（14－7／11－9）16 北海道（北海道選抜）
- 熊本県（熊本選抜） 16（7－11／9－8）19 福井県（福井商業高等学校）
- 三重県（三重選抜）

27日　2回戦（左）
- 32（15－6／17－5）11
- 21（11－10／10－5）15
- 21（11－5／10－7）12
- 10（5－5／5－3）8

28日　準々決勝（左）
- 20（11－5／9－8）13
- 12（6－8／6－10）18

29日　準決勝（左）
- 25（13－7／12－9）16

30日　決勝戦・3位決定戦
決　勝
- 13（5－8／8－6）14

3位決定戦
- 福井県 21（11－7／10－9）16 山口県

29日　準決勝（右）
- 32（17－2／15－7）9

28日　準々決勝（右）
- 22（11－10／11－8）18
- 21（8－10／13－5）15

27日　2回戦（右）
- 23（12－5／11－9）14
- 19（7－7／9－9／2－2／1－1／7TC／1－3）19
- 22（13－10／9－11）21
- 24（12－6／7－13／3－3／2－1）23

26日　1回戦（右）
- 京都府（京都選抜）
- 神奈川県（全神奈川） 21（6－8／15－6）14 青森県（全青森）
- 栃木県（栃木選抜） 18（8－5／6－9／4－3／0－2）19 愛媛県（愛媛選抜）
- 大分県（大分鶴崎高校）
- 山口県（山口選抜）
- 兵庫県（兵庫選抜） 17（10－8／7－12）20 富山県（全富山）
- 千葉県（千葉選抜） 21（12－6／9－10）16 沖縄県（沖縄選抜）
- 愛知県（愛知選抜）

が押し切った。

《決勝》

大阪府 20 (10－6 / 10－11) 17 山口県

前半立ち上がり、大阪はカットイン、ポストシュート、相手ミスを拾っての速攻と得点を重ねる。一方山口も、ポストシュート、ミドルシュート、7mスローで加点し、少年男子決勝に相応しい好ゲームを展開する。中盤、大阪は2本の速攻とミドルシュートを絡めて3点差に広げる。山口のミドルシュートに対し、大阪も5番阪選手、11番佐々木選手、4番内山選手のミドルシュート等で5点差に広がるが、前半終了間際、山口の7mスローが決まり10対6の大阪4点差リードで折り返す。後半、大阪は前半終了間際の退場で一人足りなかったが、5人で必死に守り抜く。入場後は堅い守りからの速攻やミドルシュートで加点。対する山口は中盤にかけて得点が止まり、その間に大阪は11番佐々木選手（2年）のステップシュートが2本、2番中野選手の速攻とサイドシュート等が決まり、勝敗を決する大切な時機に確実にチャンスをものにした大阪が優勝の栄冠を勝ち取った。

スピードに乗った攻防が続き2000人近い観客席を沸かせる好ゲームであった。

得点	[大阪]	番号	番号	[山口]	得点
0	奥野圭太	1	1	坂本大輔	0
6	中野真人	2	2	鶴田裕久	3
0	服部和真	3	3	岡本敏明	5
4	内山　秀	4	4	藤岡佳宏	2
5	阪　昭博	5	5	佐古敦士	3
0	上田悠司	6	6	森本直之	1
0	安田裕介	7	7	松田光司	0
0	堀越　衛	8	8	明石光史	1
1	馬屋原寿	9	9	村田智和	0
0	植田智道	10	10	永本互治	2
4	佐々木優	11	11	河崎竜市	0
0	廣富裕一	12	12	藤村有史	0
20	計				17



■少年女子

《準決勝》

大阪府 25 (13－7 / 12－9) 16 福井県

前半開始2分、福井は2番山本選手のアシストで8番室田選手がポストシュートを決めて先取点を挙げる。一方、大阪はその後の7分間に6番森本選手のサイドから回り込んだミドルシュートや虚を突いたミドルシュートを皮切りに3番西尾選手のサイドシュートや8番松山選手のポストシュートと連続6点をゴールする。しかしその後、大阪の動きが止まり、福井は10番富田選手や4番仲澤選手のボールカットからの連続速攻で得点を重ねる。しかし、福井にとっては立ち上がりの5点差が最後まで尾を引いた致命的な失点となってしまう。大阪13対7福井、で始まった後半。福井は3番富田選手のロングシュートを軸にした戦法やサイド攻撃で反撃を開始する。大阪6番森本選手にマンツーマンDFをつけて守りを固めて流れを引き込もうとした。これに対し大阪も福井の3番富田選手にマンツーマンDFをつけて対抗する。結果的には、大阪6番森本選手に12得点を許してしまった点と防御力を高める戦術の工夫の点で大阪が福井を上回り決勝に進出した。

京都府 32 (17－2 / 15－7) 9 山口県

前半開始1分、京都の攻撃リーダー3番高宮選手のポストシュートで始まった試合は、9分過ぎまでに、6対0と京都ペースで展開された。この間山口は、京都の防御の要である長身6番興梠選手の高さのあるDFに惑わされて得点することができず、3番松村選手（9分）、11番上村選手（22分）の2点に抑えられ前半を終了した。後半に入っても京都のリードは揺るがず、山口は得点の差を縮めることができなかった。正攻法で正面からの攻撃を多用する山口に対し、鉄壁の防御から速攻で持ち味を遺憾なく発揮した京都が大差で試合を勝ち取った。

《3位決定戦》

福井県 21 (11－7 / 10－9) 16 山口県

前半、お互いに良く動き回り5分過ぎより速攻の応酬となる。しかし、速攻では長身選手を揃えた福井のディフェンスを山口はなかなか突破できず、攻めあぐむ内に速攻を決められる。山口はGK河村選手のファインプレーや3番松村選手の活躍で何とか4点差で食い下がる形となった。後半に入っても、展開は前半と変わらず一進一退であったが、17分、福井7番伊藤選手退場の間に山口が2点差まで詰め寄ったが、その後福井4番仲澤選手のミドルシュートや速攻等で再び4点差にリードを広げた。結局、確実にシュートを決めた福井が21対16のスコアで逃げきった。

《決勝》

京都府 14 (8－5 / 6－8) 13 大阪府

関西勢同士の決勝戦。平均身長で少し上回る京都は、ミドル、ロングシュート等を決めれば、対する大阪は大きな壁を破ることはできないが、ポストシュートで対抗する。速攻を武器にする大阪は、パスミス、シュートミスがあり、なかなかペースがつかめない。一方京都のロング、ミドルシュートは小気味よく決まり中盤まで京都が7対5とリードする。中盤以降は、互いに決めてのない状態が続くが終了間際7mスローを京都が決めて、8対5、京都リードで折り返す。後半立ち上がり大阪は6番森本選手のカットイン、ミドルシュートの連取で着々と加点し、8分過ぎ10対10の同点に持ち込む。大阪の後半のディフェンスは、ロング、ミドルシュートに対する詰めが早くなり、加えてGK三原選手の好守もあり、白熱戦が展開された。洛北高校単独チームで臨む京都はコンビネーションも良く、ポスト、サイドシュートを正確に決めて逃げきろうとするが、大阪も踏ん張り勝負は残り1分まで持ち込まれた。しかし、大阪は同点に持ち込むことができず、奮戦空しく1点差の惜敗を喫した。

得点	[大阪]	番号	番号	[京都]	得点
0	三原裕子	1	1	橋本幸代	0
0	青山寿子	2	2	坪井美帆	3
1	西尾一美	3	3	高宮由希	4
0	浅野知佐	4	4	林　春花	2
3	今井利恵	5	5	大西佳奈	2
5	森本美奈子	6	6	興梠佳穂	0
0	菅野安希子	7	7	喜多里香	1
2	松山祐子	8	8	船本博美	0
0	小松聖子	9	9	酒井麻衣子	2
2	高橋敦子	10	10	堀田真子	0
0	土屋友美	11	11	岡山展子	0
0	浅井友可里	12	12	森下朋恵	0
13	計				14

1997年
第13回女子世界選手権大会代表メンバー

㈶日本ハンドボール協会では、1997年第13回女子世界選手権大会出場選手、並びにコーチングスタッフを決定した（機関誌11月号）。1997女子世界選手権は、11月30日、日本対ドイツ戦を皮切りに、ベルリンなどドイツ7都市で12月14日まで繰り広げられる。

日本ナショナルチームは、11月8日から合宿に入り、15日にスロバキアに出発。ここからスロバキア、ハンガリーへと転戦をし、ドイツへと入る。この遠征で大柄な外国勢との戦いに慣れ、本戦へと向かう。

世界のハンドボール界は、東欧諸国の崩壊により、西側諸国のデンマーク、韓国、ノルウェーなどが世界の上位を占めるようになった。このような状況の中で、前回は韓国が世界チャンピオンとなっており、シドニーオリンピックに向け韓国がシードに入る可能性が高まっている。このことにより日本女子ナショナルチームとしては、アジアの代表枠を得る可能性が高まっている。

このように、シドニーに向けての一連の強化策の今大会には、ベスト9～11位に挑戦する。

日本は予選リーグAグループに入っており、開幕戦で開催国ドイツと当たる。この戦いは苦しいが、ブラジル、アンゴラから2勝をあげ、決勝トーナメントに進みたいところである。

いずれにしても、日本としては強力なアタッカー不在のため、セットオフェンスでの戦いは苦しい戦況を強いられる。ディフェンスを固め、速攻に打開策を求めていくことになる。また、合宿直前まで、日本リーグ、国体と大会があり、ナショナルチームとしてのコンビにも不安を残すが、本大会までのトレーニングでの調整に期待したい。

【期間】
1997年11月30日(木)～12月14日(日)

【場所】
ドイツ（ベルリン、ハノーバー、ハンブルグ、ローテンブルグなど7都市）

【参加チーム】
オーストリア、ドイツ、ポーランド、ブラジル、日本、アンゴラ、ノルウェー、クロアチア、フランス、ベラルーシ、カナダ、ウズベキスタン、韓国、ルーマニア、ハンガリー、アイボリーコースト、アルジェリア、ウルグアイ、デンマーク、ロシア、マケドニア、中国、チェコ、スロベニア

【日本チームの日程】
11月30日（予選リーグ）
日本対ドイツ
12月3日（予選リーグ）
日本対オーストリア
12月4日（予選リーグ）
日本対ブラジル
12月6日（予選リーグ）
日本対アンゴラ
12月7日（予選リーグ）
日本対ポーランド
12月9日（8位以内決定戦）
12月11日（準々決勝）
12月13日（準決勝）
12月14日（決勝・順位決定戦）

女子世界選手権過去の記録

	年	開催国	優勝国	2位	3位	日本の成績
第1回	1957	ユーゴスラビア	チェコスロバキア	ハンガリー	ユーゴスラビア	不出場
第2回	1962	ルーマニア	ルーマニア	デンマーク	チェコスロバキア	9位
第3回	1965	西ドイツ	ハンガリー	ユーゴスラビア	西ドイツ	7位
第4回	1971	オランダ	東ドイツ	ユーゴスラビア	ハンガリー	9位
第5回	1973	ユーゴスラビア	ユーゴスラビア	ルーマニア	ソ連	10位
第6回	1975	ソ連	東ドイツ	ソ連	ハンガリー	10位
第7回	1978	チェコスロバキア	東ドイツ	ソ連	ハンガリー	不出場
第8回	1982	ハンガリー	ソ連	ハンガリー	ユーゴスラビア	予選敗退
第9回	1986	オランダ	ソ連	チェコスロバキア	ノルウェー	14位
第10回	1990	韓国	ソ連	ユーゴスラビア	東ドイツ	予選敗退
第11回	1993	ノルウェー	ドイツ	デンマーク	ノルウェー	予選敗退
第12回	1995	オーストリア・ハンガリー	韓国	ハンガリー	デンマーク	13－16位

第13回女子世界選手権大会代表選手



①やまぐち　あやこ
②山口　文子
③オムロン
④1975年10月22日
⑤173cm・67kg
⑥ゴールキーパー
⑦鳥取県
⑧境高校
⑨ノーマークシュートキラー

団長	中澤　重夫	(財)日本ハンドボール協会
副団長	殿水　幸雄	(財)日本ハンドボール協会
監督	樫塚　正一	武庫川女子大(公認A級コーチ)
コーチ	西窪　勝弘	オムロン
アドバイザーコーチ	伊藤　宏幸	日立栃木(公認B級コーチ)
ドクター	佐久間克彦	熊本赤十字病院
トレーナー	陣上　修一	熊本赤十字病院
通訳	岩崎みどり	エモック・エンタープライズ

①ふりがな	④生年月日	⑦出身地
②氏名	⑤身長・体重	⑧出身校
③所属	⑥ポジション	⑨特徴



①たむら　けいこ
②田村　啓子
③オムロン
④1972年９月29日
⑤165.1cm・59.3kg
⑥フローター
⑦山口県
⑧武庫川女子大学
⑨ステップシュート



①まつお　かよ
②松尾　かよ
③ジャスコ
④1972年４月13日
⑤172cm・62kg
⑥ゴールキーパー
⑦大阪府
⑧大阪体育大学
⑨思い切りのあるキーピングとガッツ



①うらた　まき
②浦田　万紀
③ジャスコ
④1976年８月18日
⑤170.4cm・66.6kg
⑥フローター
⑦京都府
⑧京都府立洛北高校
⑨ロングシュート



①やました　みちこ
②山下　美智子
③大和銀行
④1976年１月５日
⑤176cm・70kg
⑥ゴールキーパー
⑦熊本県
⑧宣真高校
⑨ダイナミックなキーピング

第13回女子世界選手権大会代表選手

 ①すぎはら　なな **②杉原　奈々** ③オムロン ④1973年4月9日 ⑤160cm・56kg ⑥右サイド ⑦奈良県 ⑧武庫川女子大学 ⑨速攻	 ①かみで　えみこ **②上出　恵美子** ③北國銀行 ④1973年5月17日 ⑤168cm・58kg ⑥センター ⑦石川県 ⑧小松商業高校 ⑨フェイント、ステップシュートは誰にもとめられない
 ①たなか　みねこ **②田中　美音子** ③大和銀行 ④1975年1月14日 ⑤160cm・55kg ⑥サイド ⑦大阪府 ⑧四天王寺高等学校 ⑨視野の広いボールさばき	 ①まつもと　えみ **②松本　恵美** ③日立栃木 ④1973年7月6日 ⑤171cm・72kg ⑥45度 ⑦栃木県 ⑧国学院栃木 ⑨DFは私にまかせなさい！
 ①たなか　みよこ **②田中　美代子** ③北國銀行 ④1975年1月19日 ⑤167cm・68kg ⑥フローター ⑦石川県 ⑧小松商業高校 ⑨パワーロングシュート	 ①あおと　あかね **②青戸　あかね** ③イズミ ④1974年7月11日 ⑤162.6cm・64.9kg ⑥左サイド ⑦広島県 ⑧東京女子体育大学 ⑨ボイス

第13回女子世界選手権大会代表選手



①ふじうら　みえ
②藤浦　美絵
③大和銀行
④1975年12月19日
⑤171cm・70kg
⑥ポスト
⑦兵庫県
⑧夙川学院
⑨パワープレー



①つじ　かなこ
②辻　賀奈子
③ジャスコ
④1975年２月13日
⑤162cm・59kg
⑥サイド
⑦京都府
⑧大阪体育大学
⑨速攻でのシュート



①さくがわ　ひとみ
②佐久川　ひとみ
③大崎電気
④1977年７月21日
⑤160cm・61kg
⑥サイド
⑦沖縄県
⑧浦添高校
⑨しゃくりシュート



①たぐち　じゅんこ
②田口　順子
③日本体育大学
④1975年９月26日
⑤167cm・65kg
⑥右45度
⑦熊本県
⑧松橋高校
⑨背筋を使ったシュート



①すみ　さちえ
②隅　幸恵
③オムロン
④1977年３月21日
⑤165cm・65kg
⑥フローター
⑦山口県
⑧岩国商業高校
⑨パワープレー



①たなか　ゆみこ
②田中　由美子
③北國銀行
④1975年７月25日
⑤176cm・67.5kg
⑥ポスト
⑦石川県
⑧小松商業高校
⑨長身を生かしたポストプレー

第49回全日本総合選手権大会展望

男子 本田技研が軸か？
女子 オムロンの連覇成るか

平成9年度第49回全日本総合ハンドボール選手権大会は、女子の部がドイツでの世界選手権参加のため、一昨年以来男子の部と分散開催で行われる。また、第50回大会より全日本総合の見直しがなされるため、従来の方式では最後の大会となる。

男子の部は12月4日(木)～7日(日)まで東京体育館で、女子の部は12月20日(土)～23日(火)まで神戸のグリーンアリーナで開催される。11月12日現在では組み合わせが決まっておらず、また全日本学生選手権開催中で学連代表が出揃ってはいないが、日本リーグを中心に優勝の行方を追ってみる。

■男子

まず、男子の部の出場チームは、日本リーグ10チーム、全日本実業団より1チーム、全日本教職員より1チーム、全日本学生連盟より3チームに、ジャパンオープントーナメントより1チームの配分となっている。このうちすでに分かっている出場チームを挙げると、日本リーグより、大同特殊鋼、中村荷役、湧永製薬、日新製鋼、大崎電気、本田技研、三陽商会、北陸電力、トヨタ車体、三景、全日本実業団よりアラコ九州、全日本教職員より埼玉フェニックス、ジャパンオープントーナメントより、香川クラブ、全日本学生からは日本体育大学、早稲田大学、順天堂大学が出場する。昨年度からの実績から見て、シード組は大同特殊鋼、中村荷役、湧永製薬、日新製鋼あるいは本田技研が有力と見る。これらに対し、ジャパンオープントーナメントから出場の香川クラブがどの枠に入るかが注目される。香川クラブは2年連続で全日本総合で日本リーグ1部を破っており、本年度の大阪国体でも、大崎電気を破って準決勝に進んでいる、今年も注目に値するチームであるが故に、どこのゾーンに入るかが注目される。戦いやすいゾーンに入れば、一昨年の名城大学のように上位進出も期待される。

次に注目されるのは日本体育大学。インカレで勝ち抜いての話だが、ナショナルプレイヤー佐々木を始めとして体格的にも、また、世界学生代表の田場、谷口を擁し、実業団チームに見おとりがしない。このチームも波乱の目となる要素を含んでいる。

どちらにしても日本リーグ勢が中心として展開するのは間違いないが、今年の日本リーグでは少々異変が起きているようである。このため、シードの分かれ方で波乱が続出の可能性もある。現在進行中の日本リーグでは、中村荷役、日新製鋼が不調で勝ち星に恵まれていない。一方、本田技研が快調でトップの座にいる。これに加え、新外国人選手が本田技研に加わるため、一挙に優勝候補の最有力となる可能性がある。そうすると、本田技研を軸に大同、湧永の戦いぶりが注目される。また、現在好調の三陽商会の戦いぶりも見逃せない。

■女子

女子の部出場チームは、日本リーグ9チーム、全日本実業団1チーム、全日本教職員1チーム、全日本学生連盟より4チーム、ジャパンオープンより1チームとなっている。

日本リーグからは、イズミ、日立栃木、北國銀行、立山アルミ、大崎電気、オムロン、ジャスコ、大和銀行、シャトレーゼ、全日本実業団よりブラザー工業、全日本教職員より京都職員クラブ、ジャパンオープンよりかながわガビアーノが出場する。全日本学生連盟からは、東京女子体育大学、武庫川女子大学、筑波大学、大阪体育大学が出場する。

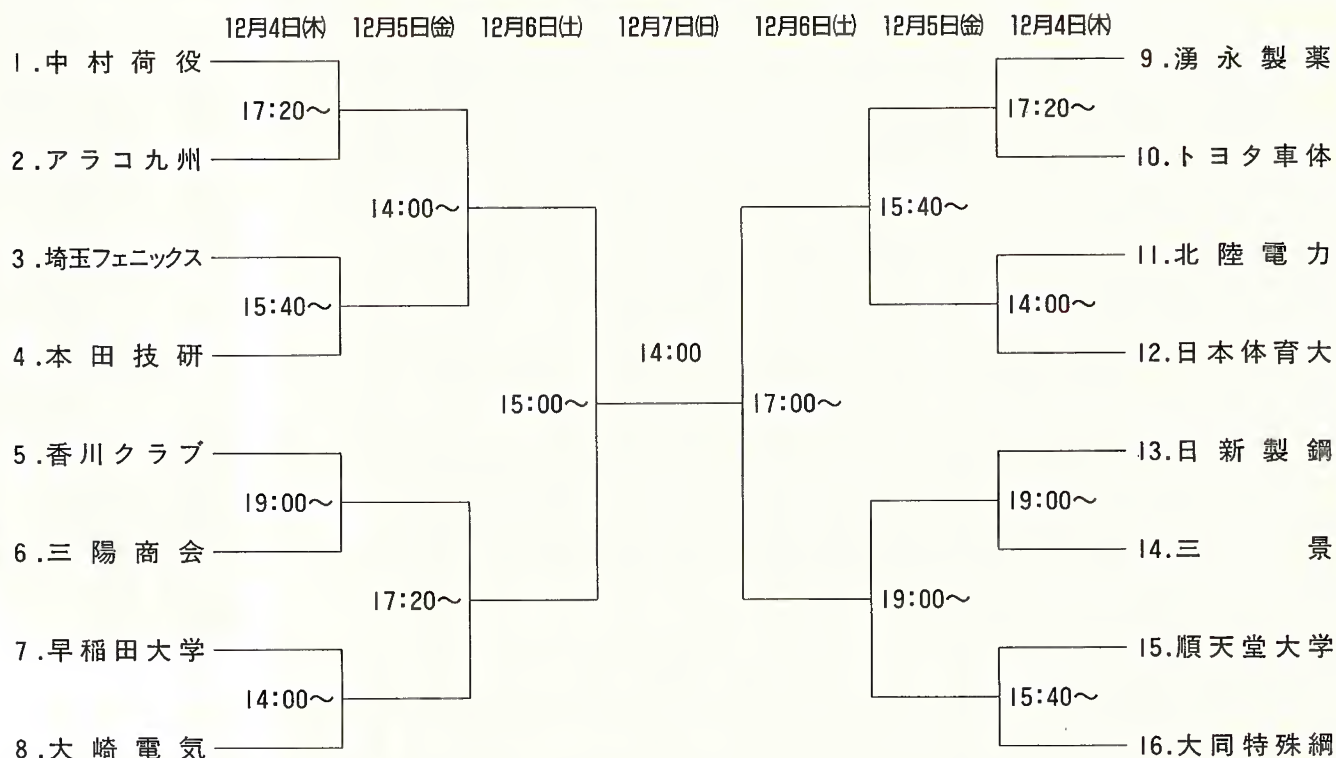
世界選手権後の開催でもあり、日本リーグ各チームは主力をナショナルチームに送り出しており、コンビネーションの調整が間に合うかといったところである。まずシードを占えば、昨年度からの実績では、イズミ、日立栃木、北國銀行、大崎電気、立山アルミ、オムロンなどが挙げられる。特にオムロンは昨年度チャンピオンであり、昨年度日本リーグで不調ながら全日本総合を制した実績もあり、今年も有力候補であることに間違いないであろう。これに今年度に入って好調の日立栃木が有力候補であろう。また、国体で決勝に駒を進めた、好調ジャスコも注目される。さらに北國銀行も地力があるチームだけに候補から外すわけにはいかない。

いずれにしても、世界選手権に多くの選手を出しているチームには戦いにくい状況となろう。その分、近年成果を出しつつある学生チームにもチャンスが大いにあると思われる。特に東京女子体育大学は昨年もベスト4に入っており、その活躍が期待される。

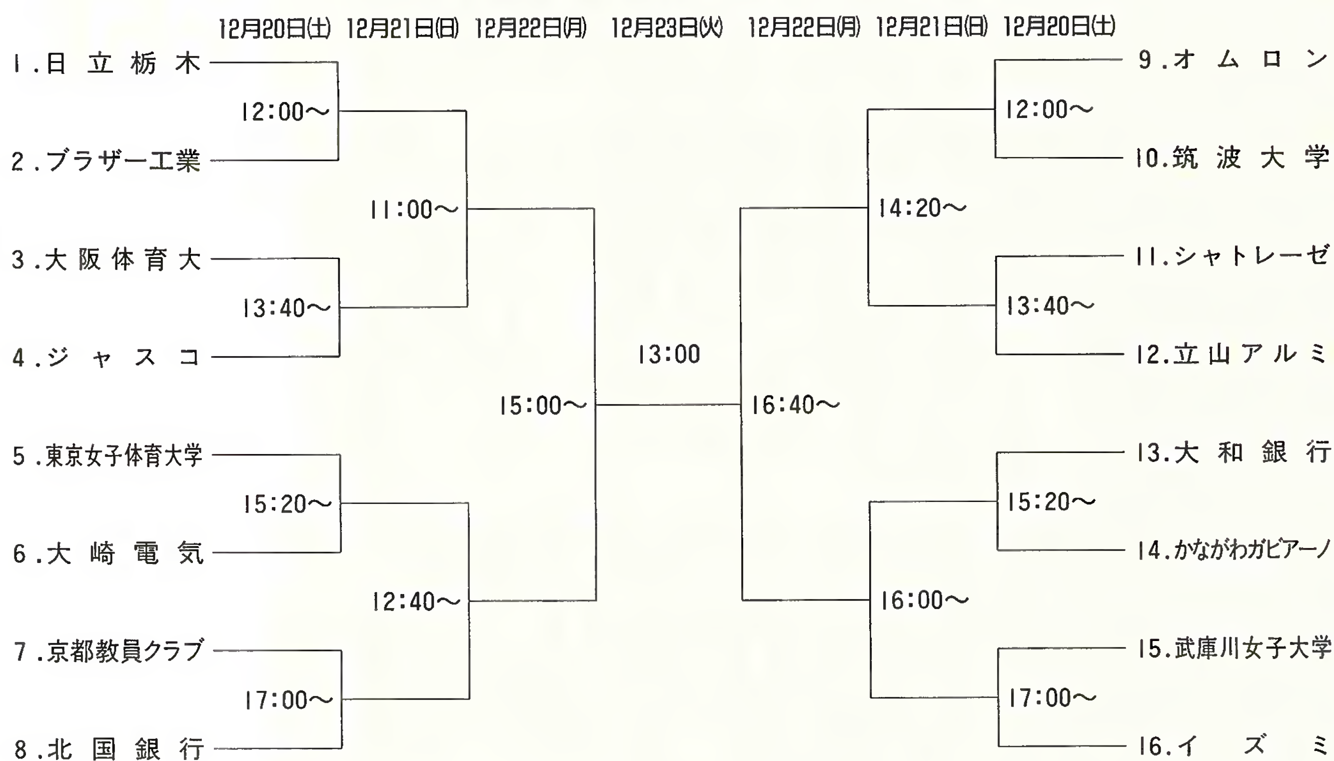
まわりの状況を考え大胆予想をすれば、組み合わせにもよるが、ベスト4に学生チームが2チーム進出することがあり得るかもしれない。

第49回全日本総合選手権大会組み合わせ

[男子の部](東京体育館)



[女子の部](グリーンアリーナ神戸)



平成9年度　第49回全日本総合ハンドボール選手権大会　開催要項

男　子

主催　㈶日本ハンドボール協会

主管　第49回全日本総合ハンドボール選手権大会実行委員会

後援　㈶日本体育協会　㈶日本オリンピック委員会　東京都教育委員会　読売新聞社

協賛　㈱アシックス

期日　平成9年12月4日㈭～7日㈰

場所　東京体育館

日程　第一日目12月4日㈭男子1回戦8試合

第二日目12月5日㈮男子2回戦4試合

第三日目12月6日㈯男子準決勝2試合

第四日目12月7日㈰男子決勝戦1試合

出場チーム　日本リーグ10チーム、全日本実業団連盟推薦1チーム、全日本教職員連盟推薦1チーム、全日本学生連盟推薦3チーム、日本協会推薦（ジャパンオープン）1チーム、合計16チーム

テレビ放映　NHKテレビで全国放送

12月7日㈰14:00～15:30

展示コーナー開設　'97男子世界ハンドボール選手権大会・熊本　写真・物品展示

ファン交流会　大会期間中、大会会場において出場選手と一般観客との交流会を開催

女　子　がんばろう神戸！　阪神淡路震災復興祈念

主催　㈶日本ハンドボール協会

主管　兵庫県ハンドボール協会

後援　兵庫県　兵庫県教育委員会　㈶兵庫県体育協会　神戸市　神戸市教育委員会

㈶神戸市体育協会　㈶神戸市公園緑化協会　㈱読売新聞社

協賛　㈱アシックス

期日　平成9年12月20日㈯～23日㈫

場所　神戸市総合運動公園「グリーンアリーナ神戸」

日程　第一日目12月20日㈯女子1回戦8試合

第二日目12月21日㈰女子2回戦4試合

第三日目12月22日㈪女子準決勝2試合

第四日目12月23日㈫女子決勝戦1試合

出場チーム　日本リーグ9チーム、全日本実業団連盟推薦1チーム、全日本教職員連盟推薦1チーム、全日本学生連盟推薦4チーム、日本協会推薦（ジャパンオープン）1チーム、合計16チーム

選手ファン交流会

全日本総合男子第3日に







第49回全日本総合ハンドボール選手権大会（男子の部）は12月4日から東京・千駄ケ谷の東京体育館で開催されるが、大会第3日の6日(土)、「選手とファンの交流会」が行われる。

交流会は昨年と同様、準決勝の試合がそれぞれ終了後、対戦した両チームの選手たちがフロアの一隅でファンと交歓しようというもの。

交流会では、翌日の決勝に進出する2チームと、この日惜敗し3位になった2チームの選手がファンの質問に答えてトレーニング法や技術的な話、今後の豊富などを話すほかサイン会や手形を贈る。

特に今回は、今年5月、熊本で開かれた世界選手権に出場した全日本チームのトレーニングウエアなどが展示され、希望者は試着してのインスタント写真を撮影してもらえる。また、大会初日の4日から6日までファンの観戦写真を撮影、翌日展示し、希望者にはプレゼントされるサービスもある。

この交流会は(財)日本ハンドボール協会が主催、(財)大崎企業スポーツ事業研究助成財団が企画後援する。

パークドーム熊本に世界選手権大会
記念展示場開設

井　薫



9月20日、'97男子世界ハンドボール選手権大会のメーン会場となったパークドーム熊本が、県民誰もが利用できるスポーツ施設として一般に開放された。

同時にドーム内の体育情報ピットに、世界選手権大会の関連のプログラムやメダル、記念切手その他大会グッズ等の、展示コーナーが開設された。

正面の壁には熱戦のパネル、さらに側壁面には、熊本市出身の彫刻家でハーバード大学客員芸術家の、松尾光伸氏が制作した、大会に参加した24カ国の選手50名の手形モニュメント～もう少し詳しく説明すると～選手の手形で鳩のシルエットを刻む5つの楕円が、熊本の民芸品の肥後手まりを囲んでボールを形づくっているもの。MVPのドイシェバエフ（スペイン）や、得点王の尹京信（韓国）そして優勝のロシアからはクジノフ、そして世界のスーパースター、リシャーソン（フランス）。

もちろん、日本はオルソン監督と末岡主将、熊本出身の魚住、岩本の手形もあり、ハンドボーラーにとってはまさにパラダイス。

当日の開設式に酒巻コーチと末岡、中山、魚住、岩本の各選手が出席、三角熊本市長から『熊本に感動を残してくれてありがとう』と、日本代表チーム全員に感謝状が贈呈された。

全国のハンドボール愛好の皆様にも、機会があればぜひこのコーナーにおでかけいただき、世界選手権大会の余韻にひたっていただきたい。

熊本は2年後の1999年に『くまもと未来国体』を開催するが、開会式の会場が、実はパークドーム熊本のすぐ隣にあり、（世界選手権大会を観戦いただいた方は、あの長蛇の列の橋の先に、建設中の国体のメーン会場がご記憶にあると思うが）そんな環境で機会はおおいにありでおすすめする次第。

9月30日には熊本実行委員会の総会があり、会長の福島熊本県知事から最終報告が行われ、『経済効果』と共に、2000名近いボランティアの活躍や、21世紀を担う多くの児童、生徒の国際体験等の『社会効果』をあげ、日本協会や県協会の協力、そして大会事務局の労をねぎらって、第15回男子世界ハンドボール選手権大会のすべてが終了した。

全国の皆様のご理解とご協力、本当にありがとうございました。

「JOC大会参加経験者が大阪国体に数多く参加」

大阪ハンドボール協会　佐谷　光一

大阪府堺市でJOC大会が開催されるようになってから早くも5年の月日が流れました。本年度第52回国民体育大会（なみはや国体）ハンドボール競技を堺市（四会場）と高石市（一会場）の両市で開催するに当たり、本国体参加選手の内、過去5回のJOC本大会に出場した事のある選手を調査した結果、約9割の参加チームから回答を頂きました。その結果、134名のJOC大会参加経験者が大阪国体（なみはや国体）に参加される事がわかり、これを記念して堺観光コンベンション協会から記念品が授与されました。

また、本国体（なみはや国体）に参加したJOC大会参加経験者134名の選手数は、少年の部に参加した全選手480名の約3割に及び、地区大会参加経験者を含めますと実に約半数の選手がJOC大会を経験している事になります。

この事は、『広くハンドボール界の裾野を広げ、将来の日本のハンドボール界を背負って行く若い選手を発掘する』という、JOC大会の趣旨を考えれば非常に喜ばしい事と思われます。学校対抗の大会ではなく、都道府県選抜でのチーム対抗の大会を開催する事は、所属学校の力が今一歩及ばず全国中学校大会に参加する事が出来なかった選手にとっては、個人の努力次第でJOC本大会に出場出来る機会を与えられる事となり、若い年代のハンドボーラーにとって非常に有意義である事は言うまでも無いと思われます。

今後もJOC大会を通して、一人でも多くの若い人たちがハンドボールの素晴らしさを経験して欲しいと願っています。また、JOC大会参加経験者の中からナショナルチームの選手が何時の日か生まれる事を切に願ってやみません。

大阪国体出場選手で過去JOC大会に出場した経験のある選手（カッコ内はJOC大会に出場した時の地域）

■少年男子

【北海道】
清藤喜隆（北海道）、西山亮（北海道・小）、佐藤喬範（北海道・小）、佐々木豊（北海道・小）、菊池英明（北海道・小）、斎藤祥夫（北海道・小）

【愛知】
滝智哉（愛知）、酒井忠恭（愛知）、大石成臣（愛知）

【福井】
村上俊基（兵庫）、安藤和樹（愛知）、田平修一（愛知）、橋本智之（愛知・小）、古川眞司（愛知）、中川昌（北海道）、南保智史（福井）、桜井健二（愛知）、筆吉亮介（北海道）、寺尾邦仁（愛知）、高橋準（愛知）、酒井進（北海道）

【沖縄】
宮城正利（沖縄）、比嘉律（沖縄）、浅野謙二（沖縄）、仲吉邦晃（沖縄・小）、照屋喜隆（沖縄・小）、興世田拓朗（沖縄・小）、吉元和也（沖縄・小）、山内昌悟（沖縄・小）、上地邦明（沖縄）、作取克治（沖縄・小）、諸見幸忍（沖縄）、友利幸仁（沖縄）

【三重】
古市和也（三重）、大矢知剛史（三重）、吉田章哲（三重）、筑紫洋一（三重）

【奈良】
本谷洋海（奈良）、吉廣優（奈良）、斎藤高宏（奈良）、東寿行（奈良）、宮本正之（奈良）、花田行由（奈良）

【山口】
岡本敏明（山口）、永本互治（山口）、佐古敦士（山口）、藤岡佳宏（山口）、森本直之（山口）

【香川】
山地洋平（香川）、武田悠司（香川）、池本宗隆（香川）、四宮英伸（香川）、細谷紀彦（香川）、中西一欽（香川）、白井豊（香川）

【岩手】
門田尚之（岩手）、宮沢伴一（岩手）、山崎薫（岩手）、久保田浩平（岩手）、吉田哲郎（岩手）、星川雄二（岩手）、大沢勝（岩手）

【大阪】
内山秀（兵庫）、上田悠司（大阪）、

安田祐介(大阪)、飯村雄一(茨城)、浦和克行(茨城・小)

■少年女子

【兵庫】
前畑美由紀(福井)

【高知】
井上芽衣(高知)、近森真由美(高知)、小松令奈(高知)、尾原彩乃(高知)、岡林久美子(高知)、岡村舞(高知)

【山口】
松村理恵(山口)、中島賀子(山口)、岡律子(山口)、橋口裕子(山口)、上村典子(山口)、倉益好美(山口)、大羽利絵(山口)

【福井】
室田千恵子(福井)、伊藤のぞみ(福井)、太田智子(福井)、冨田貴子(福井)

【熊本】
稲田さやか(熊本・小)、松本幸子(熊本・小)、前田美穂(熊本)、原田綾(熊本)、原田恵里(熊本)、北三紀子(熊本)

【三重】
江上真紀子(三重)、服部美奈子(三重)、伊黒玲香(三重)、山中ひろみ(三重)、中林慶子(三重)、佐野由美子(三重)、出口麗奈(三重)、前田三津恵(三重)、加藤恵理(三重)、近藤良美(三重)、服部基美(三重)、青木陽子(三重)、青木祥子(三重)

【沖縄】
亀川奈々(沖縄)、仲座由美(沖縄)、照喜名沙由美(沖縄・小)、徳永さつき(沖縄)、佐久川真理子(沖縄)、垣花球美(沖縄・小)、棚原美幸(沖縄・小)、与那嶺鮎子(沖縄・小)、又吉恵里子(沖縄)、瑞慶覧基子(沖縄)、瑞慶覧仁子(沖縄・小)、豊元智香子(沖縄・小)

【神奈川】
高橋温子(神奈川)、山野由香里(神奈川)、礒明日香(神奈川)、島崎百恵(神奈川)、佐藤薫(神奈川)

【富山】
早船愛子(富山)、小清水恵子(富山・小)、蓮間怜子(富山・小)、地家祐子(富山・小)、増田亜紀(富山)、関野洋子(富山)

【愛知】
安達多華美(愛知)

【大阪】
菅野安希子(大阪)、高橋敦子(大阪)、森本美奈子(大阪)、松山裕子(大阪)、土屋友美(山形)、小松聖子(東京)

JOC大会出場経験選手の大会国体参加状況

少年男子		
北海道	6名	内5名は小学生大会出場者
愛　知	3名	
福　井	12名	内1名は小学生大会出場者
沖　縄	12名	内6名は小学生大会出場者
三　重	4名	
奈　良	6名	
山　口	5名	
香　川	7名	
岩　手	7名	
大　阪	3名	
茨　城	2名	内1名は小学生大会出場者

少年女子		
兵　庫	1名	
高　知	6名	
山　口	7名	
福　井	4名	
熊　本	6名	内2名は小学生大会出場者
三　重	13名	
沖　縄	12名	内5名は小学生大会出場者
神奈川	5名	
富　山	6名	内2名は小学生大会出場者
愛　知	1名	
大　阪	6名	

１９９７ヘッドレフェリーシンポジューム報告

新競技規則（１９９７年８月１日より実施）
ウィリー・ハッケル（ＩＨＦ／ＰＲＣインストラクター）

（文責）ルール研究委員会委員長　後藤　登
ルール研究委員会委員　清水宣雄

１９９６年２月９日の国際ハンドボール連盟（ＩＨＦ）の総会で、競技規則、競技規則解釈、並びに、交代地域規定の変更が決定した。

ここに初めて、新競技規則から変更された重要な部分を抜粋し、それに関する競技規則の注釈、レフェリーのジェスチャー、競技規則解釈、そして交代地域規定について、変更の理由を述べながら解説する。

■序文

本競技規則は、１９９７年８月１日より実施される。

本改正競技規則には、注、ＩＨＦジェスチャー、競技規則解釈、および交代地域規定が含まれる。

■競技規則の変更

●第２条

２の１を次のように変える。

16才以上の男子、および、女子の競技時間は、前後半30分ハーフとし、10分の休憩時間を入れる。

12才から16才のユースチームの競技時間は、前後半25分ハーフ、８才から12才のチームの競技時間は、前後半20分ハーフとし、いずれの場合も休憩時間は10分とする。

基本的に、８才以下で行う「ミニ・ハンドボール」では、前後半10分、または15分ハーフとし、10分の休憩時間を入れる。

年齢による多様性と、ユースチームの競技時間が盛り込まれた。これは多くの国にとって新しい事である。これは国際的なゲームで、同じ年齢層のチームが集まることを確かなものにするために、年齢層を規格化するということである。ユースチームの競技に関しては、２年の代わりに３年のステップとした。国際的な選手権の参加資格については、年齢の幅やそれぞれの資格を得る日付の範囲が、公式に発表される。

●第４条

４の５を次のように変える。

不正交代は、違反したプレイヤーがサイドラインを越した場所から相手チームに、フリースローが与えられる（13の１ａ）。しかし、競技が中断したときに、相手チームに有利な地点にボールがあるときは、その有利な地点から、フリースローを行う。加えて、攻撃側のプレイヤーは、退場となる（17の３ａ）。競技の中断時に、不正交代が起きた場合は…（以下同文）

チームがフリースローを与えられることによって、そのチームが不利になることはないが、相手のゴールエリア近くで攻撃しているときに、反則が起こった場合、以前には、フリースローの位置が、交代地域に戻されるケースが見られた。この変更は、ハーフの終盤において重要な意味を持つこととなり、相手チームを不利にするために、故意に不正交代をすることは、もはや、何の意味も持たなくなる。

４の７の第２段落を次のように変える。

プレイヤーの番号は、１番から20番である。番号は最低20㎝の背番号と、最低10㎝の胸番号をつけなければならない。

一般的に、チームは通常は、同じ背番号である。しかし、ゴールキーパーが特定のゴールキーパー専用の背番号を付ける義務はない。同様に、例外として20を越える番号を使用することができるようになる（たとえば、スポンサーが興味を示す番号など）。

●第７条

７の８　条文の第２段落『ボールが、足、または、膝から下の部位に触れても、そのプレイヤーやチームが有利にならなければ、罰することはない』を削除。

結果として、相手が投げつけた場合を除き、膝から下の部位にボールが触れた場合は、常に反則となる。

７の９　７の９を全文削除。

結果として、床に止まっているボール、あるいは、床を転がっているボールに対して、身を投げかけることが、許されるようになる。

７の10～７の12を７の９～７の11に変える。

７の11（新）を次のように変える。

次のことは、許されない。

ボールを所持しているチームが、攻撃しようとしなかったり、ゴールへシュートせずに、ボールを持ち続けようとすること。これは、パッシブプレイとみなされ、レフェリーは、予告のジェスチャー（ジェスチャー19）をするべきである。その後も、ボールを所持しているチームが、シュートをしようとしなかったときには、相手チームに、フリースローが与えられる。このフリースローは、競技が中断されたときに、ボールがあった場所から行われる（13の１ｆ）。

パッシブプレイ（観衆には「タイムプレイ」と呼ばれる）のこの新しい形式は、レフェリーのゲームに対する判断を、予告のジェスチャーによって、チームに示すことができる必要性から生まれた。以前は、結果的に攻撃側がボールを失うように、レフェリーは笛を吹かなければならなかったが、今後は、プレイヤーが

相手によりプレッシャーを与えようとするかもしれない。そうなれば、ゲームはより魅力的になるであろう。パッシブプレイの予告ジェスチャーの方法と解説については、競技規則解釈の7で説明される。

●第8条

第8条を次のように変える。

次のことは許される。

8の1

(a)ボールをブロックしたり、得るために、腕や手を使うこと。

(b)いかなる方向からでも、相手からボールを取るために、開いた片手を使うこと。

(c)ボールの所持にかかわらず、相手プレイヤーの進路をさえぎるために、体を使うこと。

(d)正面で、まげた腕を使って相手の身体に触れること。さらにこの体勢のまま、相手の動きに合わせてついてゆくこと。

次のことは許されない。

8の2

(a)相手のプレイヤーが持っているボールを、奪い取ったり、叩いたりすること。

(b)腕、手、脚で相手プレイヤーを阻止したり、押し出すこと。

(c)相手に抱きついたり、つかんだり、押すこと。走って、または、ジャンプして相手にぶつかること。

(d)その他、相手プレイヤーが、ボールを所持している、いないにかかわらず、規則違反によって妨害したり、危険をおよぼすこと。

(注)競技規則8の2aからdの規則違反は、攻撃側に対しても、防御側に対しても同様に適用する。

攻撃側の違反は、攻撃側プレイヤーが、走ったり、または、ジャンプして相手にぶつかったときに、特に見られる。このルールが適用されるためには、防御側プレイヤーは、身体接触の起こるまで、あらかじめ攻撃側プレイヤーの正面で、正しい位置取りをし、しかも前方に動くことは許されない。

8の3　相手に対する動作の違反は（8の2a～d）、相手チームにフリースローか（13の1g）、7mスロー（14の1a）を与える。

8の4　相手に対する動作の違反のとき、ボールでなく、明らかにプレイヤーを対象としている場合には、罰則を段階的に適用しなければならない（17の1b、17の3b）。

この罰則の段階的適スポーツマンシップに反する行為についても適用する（17の1d）。

8の5　相手に危害を及ぼすような行為に対しては、失格にしなければならない。

失格としなければならない行為とは、次のようなものである。

(a)ボールを投げようと、あるいは、パスしようとしているプレイヤーの腕を、横、または後ろから叩いたり、引っ張ること。

(b)結果的に、相手の頭や、首を殴るような行為をすること。

(c)足や膝、その他、あらゆる方法で相手の身体に打撃を与えること。

(d)走ったり、ジャンプしている相手を押したり、相手が身体のコントロールを失うような行為をすること。

8の6　著しくスポーツマンシップに反する行為（17の5b、d）をしたときは、失格となる。

8の7　競技時間中に、暴力行為をしたプレイヤーは、追放となる（17の7～9）。

第8条では、これまで許されていた行為が明文化された（例えば、8の1d）。また、相手の健康に影響を及ぼす行為をするプレイヤーを、失格させなければならないことが、より明確に示された。8の5は、相手の健康に危害を与えたときの対応について、説明されている。

具体的なVTRがルールの為に作られ、そして、プレイヤーの安全が、何よりも重要であることを明確に示すであろう。それに加え、第8条が防御側プレイヤーに対してではなく、必要であれば、攻撃側プレイヤーに対しても適用されることが、明確にされた。原注に攻撃側の反則「アタッカーズフォールト」が加えられた（8の2の後に）。

●第10条

10の3を次のように変える。

スローオフは、コートの中央から、どの方向に向かって行ってもよい。スローオフは、レフェリーの笛の合図から、3秒以内に行われなければならない（13の1h）。

スローオフを行うプレイヤーは、ボールを離すまで、片足をセンターラインの上に置いていなければならない（16の1h）。

スローオフの笛が吹かれた後、スロアーがボールを離す前に、自チームのプレイヤーがセンターラインに触れたり、踏み越した時には、相手チームにフリースローが与えられる。

10の4を次のように変える。

前、後半（延長戦も含む）の競技開始時のスローオフのとき、全てのプレイヤーは、自陣のサイドにいなければならない。

しかし、得点の後のスローオフのときは、得点したチームのプレイヤーは、コートのどちらのサイドにいてもよい。

スローオフのとき、相手チームのプレイヤーは、スローオフをするプレイヤーから、少なくとも、3m離れていなければならない

（16の7）。

得点をしたチームのプレイヤーが、相手チームのスローオフの前に、自陣のサイドに戻る必要がなくなった。プレイヤーがスローオフをするときには、コートの中央で、センターラインを踏んで行わなければならない。その際、チームメイトは、レフェリーが競技開始の笛を吹くときには、自陣のサイドにいなければならない。これで、ゲームがより速く、そして、より魅力的なものになる。このような技術的・戦術的変化は、ゲームの質を向上させるかもしれない。将来、この『速いスローオフ』が、ゲーム中に何度も応用される場面が見られるであろう。従って、タイムキーパーとスコアラーの仕事には、より集中することが必要となる。得点の表示と記録を、より速くしなければならないし、場合によっては、レフェリーが得点の後に行うレフェリーメモの記載を、待つ必要が出てくるかもしれない。得点を讃える応援や、防御のための選手交代は、もはや、今までのように見られなくなるかもしれない。他方、相手のサイドに居残ることが、スポーツマンシップに反する行為とみなされるのは、過去のこととなるであろう。

●第14条

14の2に次の文を加える。

7mスローの判定をしたときには、レフェリーは、必ずタイムアウトをとらなければならない（2の4、競技規則解釈1）。タイムキーパーは、公示時計を止め、レフェリーの競技再開の笛の合図で、再び計時する。

14の2～14の9を14の3～14の10に変える。

7mスローの際、レフェリーは迷うことなく競技時間を中断する。レフェリーだけに、競技時間を中断することが許されているからである。7mスローを判定したレフェリーは、同時にタイムアウトの笛を吹き、タイムアウトのジェスチャーをすることとなる。

●第18条

18の9を次のように変える。

違反が起こったとき、またはボールが競技場外に出た時に、どちらのチームのボールか、両レフェリーの判定が異なった場合には、常にコートレフェリーの判定が採用される。

競技の進行は、規則に従って罰することではない、との観点から「どちらのチームが罰せられるべきである」という表現が、今回の改正では削除された。ボールが競技場外に出たときにも、初めてコートレフェリーの判定が優先され、スローイン（または、スローオフ）によってゲームが続行されることが、確認された。この新しい解釈は、理論的により納得できるものである。

●第19条

19の4を次のように変える。

公示時計に、退場時間を表示することができないときには（IHFの公式試合では、少なくとも、各チーム、3名以上の退場時間計時を表示する）、タイムキーパーは、退場になったプレイヤーの入場時間と番号を、オフィシャル席に掲示しなければならない。これらの設備がないときには、チーム役員に退場者カードを手渡す。

第19条の第4段落は、構成上変えられただけである。現行では、公示時計によってのみ、退場時間が表示されることになっている。国内の試合では、退場時間を掲示する器具が2個あれば十分であるが、IHFの試合では3個必要である。もし公示時計の表示が正確でないときには、他のチームも見えるように、退場者カードをテーブルの上に掲示する。しかしながら、この方法ができなかったり、必要のないときには、退場者カードを、チーム責任者に渡す。以上の方法のなかから、可能な1つだけの方法を用いればよい。

●レフェリーのジェスチャー

両レフェリーは、違反の判定をしたときに、次に行われるスローの方向を直ちに示さなければならない（ジェスチャー7、9、13）。さらに、必要な場合は、適切な必須（決められた）のジェスチャーをしなければならない（ジェスチャー11、12、14～18）。

その上、説明の為のジェスチャー1～6と8は、適切に行わなければならない。

ジェスチャー19にパッシブプレイの予告合図を追加する。

ジェスチャー19、パッシブプレイの予告の合図（曲げた腕）は、新しいものである。使い方は、競技規則の別の部分において説明されている。レフェリーはすぐにスロー（スローイン、フリースロー）の方向を指示しなければならない、と書かれ、定められている。ここでも「アドバンテージ」の考え方の中に、攻撃の速い変化を意識しなければならないことが、強調されている。ジェスチャーのいくつかは、必ずしもなければならないものであるが、よりインフォメーションを与える為のものである。もちろん、レフェリーの判定が、観衆やマスコミに対してもより理解されるようにしなければならない。

アクロバットは必要ない

企画・広報委員
早川　文司

Free Throw フリースロー

22回目を迎えた日本リーグ、クマモト効果がどれほどのものかが気になるところである。そうしたなか、女子は大混戦。リーグ盛り上げには願ってもない様相を呈している。世界選手権のため約1カ月で7試合という超過密スケジュールの中で前期を消化した。前期は北国銀行が5勝2分けで首位に立っているものの、まだまだ絶対的なものではない。どこにもチャンスは残っているし、一つ間違えば上位もピンチに立つ危険性をはらんでいる。新春1月からの後期1試合ごとがプレーオフ進出への大きなかぎを握っているといえる。それだけに再開までの取り組み方が重要なのは言うまでもない。

一方、観客動員をみると、クマモト効果か昨年に比べ上向いている。とくに東北、北陸でのファンの出足がいいのはうれしい限りである。

ところで、先日ある会場で気になる声を耳にした。それを再現してみると―。

「サーカスやっているんじゃあないんだよ。せっかく流れをつかんだと思ったら変なプレーをしてチャンスをつぶしてしまう。ハンドボールはサーカスじゃあない。お客さんに失礼だ。基本からやり直さないとだめだよ」

こうした声はハンドボールを愛すればこそであるし、的確な指摘である。本当に耳が痛い。

どの仕事であろうと、スポーツであろうと基本は大切である。いくら一つの派手なプレーで観客を沸かせたとしても、自らのリズムを壊してしまってはどうしようもないし、真剣に戦っているチームメイトにも迷惑をかける。まして勝負のポイント場面ではなおさらである。

まずはコートに根をおろしたプレーを心掛けることが、会場に足を運んでくれた観客への礼儀だろう。派手なプレーと高度なプレーは違う。しっかりした基本を身につけた上でレベルの高い技を披露することが大切だし、ファンも期待し、待っているはずだ。せっかく観客増の兆しが見えてきた矢先だけに、今こそ確かなプレー、高度な技術でコートにぶつけてもらいたいものだ。

スピード、パワー、テクニックなど真のハンドボールの魅力を伝えることが日本リーグ勢に課せられた責任でもある。アクロバットなプレーは必要ない。それよりも確かな技術に裏打ちされた高度なプレーを精いっぱいコートに展開することだ。「今、ハンドが面白い」―それはプレーヤー自身が作りだす魅力である。

文部省への要望書の提出について（報告）

学校体育ハンドボール検討委員会委員長　佐藤　靖

教育過程の見直しの時期に際し、改訂小学校学習指導要領にハンドボールを何らかの形で加えていただけるよう、学校体育検討委員会では平成7年度より活動を続けてきております。この度、文部省に対して、日本協会としての要望書を無事提出することができましたので、次のとおり報告いたします。

平成9年7月30日(水)午後2時30分、文部省体育局体育課長玉井日出夫氏と面会し、要望書、並びに「簡易ハンドボール指導の実践報告書」（現在機関誌で連載中）を提出して参りました。協会側からは、中澤重夫専務理事、大西武三指導・普及委員長、そして私が揃って出向き、ハンドボールについてより深いご理解をいただくために、交渉に臨みました。話し合いでは、要望書を示した上で、ハンドボールの魅力と教材価値について、(1)子どもの発育・発達を促す、(2)小学1年生から6年生までの子どもにとって楽しいボールゲームである、(3)戦術の学習が容易である、(4)教材づくりがしやすい、(5)生涯スポーツへの導入を容易にする、といった5つの側面をアピールしてきました。また、教科調査官、本村清人氏と池田延行氏、さらには体育官、鈴木漠氏とも面会でき、様々な側面からご指導を仰ぐことができました。

これらの面会の結果、文部省側の意向として次の点を確認することができました。

・今後は、学校週5日制による学校のスリム化によって、教材を精選しなければならない。「生きる力」に資する基礎・基本は何かを問う必要がある。

・投のスキルを獲得させる教材を、ボールの条件（大きさ、重さ）を考慮しながら、「ゲーム」や「基本の運動」の中で考えてほしい。

・ハンドボールの専門家でなくても教えられる授業づくりの研究をしてほしい。

・学習指導要領では、今後は運動の取り上げ方が変わってくるであろう。現在のところ「球技」（「ボール運動」）領域の中身は模索中である。選択の範囲も問題になろう。

・(財)日本バレーボール協会が実践してきたミニソフトバレーの講習会の仕方は参考になろう。

以上のことから、今回の教育改革に際し、ハンドボールが小学校学習指導要領に早急に取り上げられるかどうかは分かりません。しかしながら、協会としての要望については文部省で十分検討していただけるということでした。ハンドボールを愛する皆様方のおかげで、協会としての第一歩を踏み出せたのではないかと思います。これからのためにも、委員会としての地道な活動を継続して行くことが必要であると痛感しております。今後ともハンドボールの普及・発展のため、関係各位のご協力をいただけるようお願い申し上げます。

各地学生秋季リーグ戦結果

北海道学生

■男子1部

函館大 52-15 北見工大
道都大 24-15 北大
札幌大 43-19 北見工大
函館大 42-18 小樽商大
道都大 51-14 北見工大
函館大 35-16 北大
札幌大 25-23 小樽商大
道都大 25-24 小樽商大
北大 21-18 小樽商大
函館大 39-19 札幌大
北大 37-19 北見工大
道都大 27-15 札幌大
小樽商大 29-21 北見工大
北大 18-15 札幌大
函館大 25-21 道都大

【順位】
①函館大
②道都大
③北海道大
④札幌大
⑤小樽商大
⑥北見工業大

■男子2部

北海学園大 26-12 帯広畜産大
北教大函館 29-19 酪農学園大
酪農学園大 24-15 室蘭工業大
北教大函館 27-20 釧路公立大
北海学園大 22-17 酪農学園大
北海学園大 17-17 釧路公立大
北教大函館 27-14 帯広畜産大
室蘭工業大 18-16 帯広畜産大
北教大函館 19-16 室蘭工業大
北海学園大 19-10 室蘭工業大
釧路公立大 20-20 帯広畜産大
酪農学園大 30-20 釧路公立大
酪農学園大 29-17 帯広畜産大
釧路公立大 22-17 室蘭工業大
北教大函館 不明 北海学園大

【順位】
①北教大函館
②北海学園大
③酪農学園大
④釧路公立大
⑤室蘭工業大
⑥帯広畜産大
※1位、2位は得失点差による

■男子3部

札幌学院大 31-18 北海道工大
北星学園大 15-12 北教大旭川
札幌学院大 24-15 北教大旭川
北星学園大 32-14 北海道工大
北星学園大 20-19 札幌学院大
北教大旭川 24-20 北海道工大

【順位】
①北星学園大
②札幌学院大
③北教大旭川
④北海道工大

■男子4部

旭川大 14-9 北大医学部
北大医学部 23-10 北教大釧路
北教大釧路 16-14 北大医学部
旭川大 28-9 北教大釧路
旭川大 15-8 北大医学部
旭川大 19-10 北教大釧路

【順位】
①旭川大
②北大医学部
③北教大釧路

■女子

北大 27-4 北星学園大
北教大旭川 20-12 酪農学園大
北海道女大 41-12 帯広畜産大
酪農学園大 28-7 北星学園大
北海道女大 41-1 北星学園大
北海道女大 36-12 北大
酪農学園大 18-9 帯広畜産大
北教大旭川 32-3 帯広畜産大
北教大旭川 19-14 北大
北教大旭川 35-5 北星学園大
北大 23-7 帯広畜産大
北海道女大 21-7 酪農学園大
帯広畜産大 15-9 北星学園大
北大 14-12 酪農学園大
北海道女大 19-14 北教大旭川

【順位】
①北海道女大
②北教大旭川
③北海道大
④酪農学園大
⑤帯広畜産大
⑥北星学園大

東北学生

■男子1部

仙台大 20-19 東福祉大
仙台大 18-8 東学院大
仙台大 36-16 福島大
仙台大 24-20 秋田大
仙台大 37-17 東北大
東北福祉大 29-15 東北学院大
東北福祉大 41-4 福島大
東北福祉大 27-12 秋田大
東北福祉大 37-11 東北大
秋田大 22-22 東北学院大
秋田大 32-17 福島大
秋田大 29-20 東北大
東北学院大 31-12 福島大
東北学院大 36-11 東北大
東北大 20-19 福島大

【順位】
①仙台大
②東北福祉大
③秋田大
④東北学院大
⑤東北大
⑥福島大

■男子2部

山形大 28-23 岩手大
山形大 28-23 東北工業大
山形大 27-14 北里大獣医
山形大 21-18 学院大工学
山形大 42-11 盛岡大
岩手大 31-30 東北工業大
岩手大 34-29 北里大獣医
岩手大 29-23 学院大工学
岩手大 30-10 盛岡大
学院大工学 22-19 東北工業大
学院大工学 26-23 北里大獣医
学院大工学 22-15 盛岡大
北里大獣医 25-20 東北工業大
北里大獣医 29-20 盛岡大
盛岡大 32-29 東北工業大

【順位】
①山形大
②岩手大
③学院大工学
④北里大獣医
⑤盛岡大
⑥東北工業大

■男子3部Aリーグ

宮城教育大 16-15 弘前大
宮城教育大 21-16 北里大水産
宮城教育大 29-18 日大工学部
弘前大 22-9 北里大水産
弘前大 20-10 日大工学部
北里大水産 14-14 日大工学部

【順位】
①宮城教育大
②弘前大
③北里大水産
④日大工学部

※3位と4位は得失点差による

■男子3部Bリーグ

八戸工業大 27−13 奥羽大
八戸工業大 30−14 奥羽大
八戸工業大 20−19 石巻専修大
八戸工業大 29−15 石巻専修大
石巻専修大 27−18 奥羽大
石巻専修大 26−25 奥羽大

【順位】
①八戸工業大
②石巻専修大
③奥羽大

■女子Aリーグ

東北福祉大 34−11 秋田大
東北福祉大 38−9 岩手大
東北福祉大 38−11 仙台大
秋田大 21−14 岩手大
秋田大 21−14 仙台大
仙台大 15−3 岩手大

【順位】
①東北福祉大
②秋田大
③仙台大
④岩手大

■女子Bリーグ

宮城教育大 20−12 北里大獣医
宮城教育大 19−11 北里大獣医
宮城教育大 12−11 弘前大
北里大獣医 14−14 弘前大
弘前大 15−13 宮城教育大
弘前大 21−16 北里大獣医

【順位】
①宮城教育大
②北里大獣医
※弘前大はオープン参加

■男子入替戦

山形大 25−23 福島大
※山形大は1部リーグ昇格
東北工業大 28−26 宮城教育大
※東北工業大は2部残留
八戸工業大 17−16 日大工学部
※八戸工業大は3部Aリーグ昇格

■女子入替戦

岩手大 17−7 宮城教育大
昇格

関東学生

■男子1部

法政大 28−22 早稲田
順天堂 24−20 東海大
筑波大 34−20 国士舘
日体大 28−26 中央大
早稲田 31−23 東海大
筑波大 30−26 中央大
法政大 28−20 順天堂
日体大 31−25 国士舘
日体大 29−25 東海大
早稲田 28−22 国士舘
中央大 27−22 順天堂
筑波大 28−26 法政大
日体大 24−24 法政大
筑波大 26−17 東海大
中央大 30−22 早稲田
順天堂 23−22 国士舘
国士舘 22−16 東海大
法政大 25−25 中央大
筑波大 29−24 順天堂
早稲田 25−20 日体大
国士舘 19−15 法政大
中央大 29−22 東海大
早稲田 29−23 筑波大
日体大 27−16 順天堂
法政大 26−16 東海大
中央大 28−21 国士舘
筑波大 28−22 日体大
順天堂 24−24 早稲田

【順位】
①筑波大
②中央大
③日本体育大
④早稲田大
⑤法政大
⑥順天堂大
⑦国士舘大
⑧東海大

■男子2部

拓殖大 34−20 横商大
日本大 33−12 茨城大
慶應大 29−23 青学大
国武大 35−26 明治大
国武大 38−26 青学大
慶應大 28−15 明治大
日本大 28−15 横商大
拓殖大 27−14 茨城大
拓殖大 18−18 明治大
国武大 37−21 横商大
慶應大 23−19 茨城大
日本大 32−14 青学大
慶應大 24−24 横商大
国武大 26−23 茨城大
日本大 35−22 明治大
拓殖大 29−19 青学大
明治大 34−21 茨城大
青学大 32−25 横商大
日本大 28−18 国武大
拓殖大 33−17 慶應大
明治大 35−23 横商大
拓殖大 29−25 国武大
日本大 29−15 慶應大
青学大 16−16 茨城大
横商大 27−26 茨城大
明治大 23−22 青学大
国武大 25−25 慶應大
日本大 26−10 拓殖大

【順位】
①日本大
②拓殖大
③国際武道大
④慶應義塾大
⑤明治大
⑥青山学院大
⑦横浜商科大
⑧茨城大

■男子3部

東学大 34−25 明星大
武工大 19−20 神奈川
東京大 22−18 横国大
東理大 27−33 専修大
横国大 28−20 神奈川
東学大 34−26 東理大
専修大 27−26 明星大
東京大 30−19 武工大
武工大 24−21 専修大
東京大 32−23 明星大
東学大 28−22 横国大
東理大 32−31 神奈川
東京大 27−26 東理大
神奈川 25−25 明星大
横国大 28−20 専修大
東学大 29−18 武工大
東学大 29−16 神奈川
武工大 30−21 明星大
東京大 21−20 専修大
横国大 32−27 東理大
横国大 40−22 明星大
東学大 22−20 東京大
東理大 40−17 武工大
神奈川 27−19 専修大
東理大 35−29 明星大
武工大 29−25 横国大
東学大 22−18 専修大
東京大 22−22 神奈川

【順位】
①東京学芸大
②東京大
③横浜国立大
④東京理科大
⑤神奈川大
⑥武蔵工業大
⑦専修大
⑧明星大

■男子4部

立教大 25−17 一橋大
東経大 25−24 産能大
大東大 36−28 創価大
芝工大 28−21 上智大
芝工大 28−24 産能大
大東大 30−25 一橋大
東経大 31−19 上智大
立教大 20−14 創価大
東経大 34−22 一橋大
大東大 28−26 上智大
創価大 27−22 芝工大
立教大 29−17 産能大
立教大 26−9 上智大
東経大 34−21 創価大
芝工大 35−20 一橋大
大東大 31−25 産能大
立教大 25−19 芝工大
創価大 23−22 産能大
東経大 31−23 大東大
上智大 27−26 一橋大
一橋大 23−15 産能大
立教大 26−17 東経大
創価大 20−17 上智大
芝工大 32−24 大東大
一橋大 26−19 創価大
上智大 21−20 産能大
大東大 25−23 立教大
東経大 34−32 芝工大

【順位】
①立教大
②東京経済大
③大東文化大
④芝浦工業大
⑤創価大
⑥一橋大
⑦上智大
⑧産能大

■男子5部

明学大 28-20 都立大
成蹊大 32-28 東農大
帝京大 24-21 東洋大
千葉大 35-23 杏林大
東洋大 20-11 明学大
杏林大 38-33 成蹊大
帝京大 23-23 都立大
千葉大 27-20 東農大
杏林大 22-21 帝京大
明学大 26-19 東農大
千葉大 29-17 都立大
東洋大 28-21 成蹊大
成蹊大 37-31 都立大
明学大 23-22 杏林大
千葉大 29-24 東洋大
東農大 27-24 帝京大
成蹊大 27-26 明学大
東農大 37-26 都立大
杏林大 34-27 東洋大
千葉大 22-18 帝京大
杏林大 29-27 東農大
明学大 23-15 帝京大
千葉大 31-30 成蹊大
都立大 26-23 東洋大
杏林大 32-23 都立大
東農大 29-23 東洋大
帝京大 31-24 成蹊大
千葉大 24-20 明学大

【順位】
①千葉大
②杏林大
③明治学院大
④東京農業大
⑤成蹊大
⑥帝京大
⑦東洋大
⑧東京都立大

■男子6部

農工大 18-17 東工大
学習院 24-23 亜細亜
都留大 36-11 駒澤大
横市大 31-16 群馬大
駒澤大 15-11 亜細亜
農工大 17-14 横市大
都留大 26-18 学習院
東工大 28-18 群馬大
東工大 20-15 横市大
学習院 26-20 駒澤大
農工大 31-21 群馬大
都留大 29-13 亜細亜
農工大 28-18 亜細亜
横市大 33-19 駒澤大
東工大 30-17 学習院
都留大 31-24 群馬大
横市大 24-21 学習院
亜細亜 24-23 東工大
都留大 21-14 農工大
駒澤大 21-15 群馬大
農工大 24-16 駒澤大
横市大 23-21 亜細亜
東工大 20-17 都留大
学習院 32-20 群馬大
農工大 29-20 学習院
東工大 18-15 駒澤大
群馬大 21-19 亜細亜
都留大 23-22 横市大

【順位】
①都留文科大
②東京農工大
③東京工業大
④横浜市立大
⑤学習院大
⑥駒澤大
⑦亜細亜大
⑧群馬大

■男子7部

獨協大 20-17 宇都宮
文教大 32-14 國學院
防衛大 28-25 工芸大
文教大 34-25 宇都宮
工芸大 26-25 獨協大
山梨大 29-21 千工大
獨協大 35-10 國學院
工芸大 34-25 文教大
宇都宮 27-26 山梨大
防衛大 41-9 國學院
宇都宮 25-24 千工大
工芸大 28-20 山梨大
獨協大 21-16 千工大
山梨大 22-21 文教大
宇都宮 27-18 國學院
防衛大 33-20 千工大
獨協大 21-14 山梨大
獨協大 25-21 文教大
工芸大 26-18 國學院
防衛大 33-23 文教大
千工大 22-21 國學院
防衛大 33-23 山梨大
工芸大 29-22 宇都宮
防衛大 24-22 獨協大
千工大 27-26 文教大
山梨大 29-16 國學院
宇都宮 33-31 防衛大
工芸大 24-21 千工大

【順位】
①防衛大
②東京工芸大
③獨協大
④宇都宮大
⑤山梨大
⑥文教大
⑦千葉工業大
⑧國學院大

■男子8部Aリーグ

山学大 32-19 日工大
昭薬大 37-20 工科大
日工大 20-18 昭薬大
武蔵大 39-16 工科大
武蔵大 35-16 東電大
昭薬大 33-11 東電大
日工大 44-23 工科大
武蔵大 30-21 山学大
日工大 44-7 東電大
武蔵大 28-18 昭薬大
山学大 47-14 東電大
武蔵大 38-21 日工大
工科大 50-14 東電大
山学大 26-13 昭薬大

【順位】
①武蔵大
②山形大
③日工大
④昭薬大
⑤工科大
⑥東電大

■男子8部Bリーグ

埼玉大 29-19 平成大
玉川大 棄権 白鷗大
駿河台 棄権 白鷗大
玉川大 18-15 北里大
平成大 34-15 駿河台
埼玉大 19-19 北里大
北里大 23-21 駿河台
平成大 26-19 玉川大
埼玉大 棄権 白鷗大
玉川大 22-18 埼玉大
平成大 18-10 北里大
玉川大 24-14 駿河台
平成大 37-11 白鷗大
埼玉大 33-27 駿河台
北里大 25-11 白鷗大

【順位】
①駿河台大
②玉川大
③埼玉大
④平成大
⑤北里大
⑥白鷗大

【最終順位】
①帝京平成大
②玉川大
③埼玉大
④北里大
⑤駿河台大
⑥白鷗大

※東電学園大は、オープン参加のため、リーグ戦の対戦成績は参考とし、「勝点対象」「順位」からは除外する

■女子1部

筑波大 27-11 茨城大
日体大 27-17 日女体
東女体 35-17 国士舘
筑波大 24-18 茨城大
日体大 26-14 日女体
東女体 35-19 国士舘
日体大 26-14 茨城大
筑波大 30-15 国士舘
東女体 30-25 日女体
日体大 28-12 茨城大
筑波大 25-12 国士舘
東女体 29-13 日女体
国士舘 18-18 日女体
東女体 26-10 茨城大
筑波大 25-21 日体大
国士舘 18-13 日女体
東女体 33-12 茨城大
筑波大 27-18 日体大
日体大 23-19 国士舘
東女体 32-20 筑波大
茨城大 19-17 日女体
日女体 23-14 茨城大
日体大 23-21 国士舘
東女体 28-22 筑波大
国士舘 19-17 茨城大
筑波大 27-17 日女体
東女体 28-26 日体大
茨城大 24-10 国士舘
筑波大 31-10 日女体

東女体 29―25 日体大

【順位】
①東京女子体育大
②筑波大
③日本体育大
④国士舘大
⑤茨城大
⑥日本女子体育大

■女子2部Aリーグ

東学大 29―24 玉川大
順天堂 26―13 東理大
聖徳大 42―7 千明短
東海大 51―5 都留大
東学大 51―19 東理大
東海大 48―12 千明短
順天堂 19―16 玉川大
聖徳大 37―8 都留大
玉川大 36―10 都留大
順天堂 33―9 千明短
東海大 31―10 玉川大
聖徳大 41―13 東理大
東学大 53―14 都留大
聖徳大 35―12 玉川大
東学大 45―14 千明短
東海大 52―17 東理大
順天堂 37―8 都留大
都留大 28―27 東理大
東海大 26―9 順天堂
玉川大 35―22 千明短
東学大 23―17 聖徳大
東理大 棄権 千明短
東海大 38―24 東学大
聖徳大 35―12 順天堂
千明短 30―28 都留大
玉川大 24―16 東理大
東学大 32―18 順天堂
聖徳大 22―21 東海大

【最終順位】
①東海大
②聖徳大
③東京学芸大
④順天堂大
⑤玉川大
⑥東京理科大
⑦千葉明徳短大
⑧都留文科大

■女子2部Bリーグ

文教大 22―15 武蔵大
大東大 26―14 東医歯
東医歯 22―7 武蔵大
昭薬大 12―11 大東大
文教大 15―12 大東大
大東大 棄権 武蔵大
昭薬大 14―11 文教大
昭薬大 22―4 武蔵大
東医歯 17―15 文教大
昭薬大 21―12 東医歯

【最終順位】
①昭和薬科大
②大東文化大
③東京医科歯科大

※文教大と武蔵大は、オープン参加のため、リーグ戦の対戦成績は参考とし、「勝点対象」「順位」からは除外する

■男子入替戦

国士舘 23―22 拓殖大
東海大 14―13 日本大
横商大 34―20 東京大
東学大 23―17 茨城大
※東京学芸大は2部昇格
専修大 28―18 東経大
明星大 22―16 立教大
杏林大 27―20 上智大
※杏林大は4部昇格
千葉大 27―22 産能大
※千葉大は4部昇格
東洋大 17―14 農工大
都立大 26―21 都留大
亜細亜 27―23 工芸大
防衛大 30―25 群馬大
※防衛大は6部昇格
千工大 22―21 山学大
武蔵大 19―8 國學院
※武蔵大は7部昇格

■女子入替戦

日女体 25―16 東海大
昭薬大 14―13 都留大
※昭和薬科大は2部Aリーグに昇格

関西秋季学生

■男子1部

立命館大 29―26 関西外語大
大阪経済大 25―16 天理大
近畿大 25―23 桃山学院大
大阪体育大 28―19 京都産業大
大阪体育大 30―16 近畿大
立命館大 28―24 天理大
大阪経済大 28―24 関西外語大
京都産業大 25―24 桃山学院大
桃山学院大 31―17 関西外語大
大阪経済大 36―16 近畿大
京都産業大 37―27 立命館大
大阪体育大 38―23 天理大
京都産業大 30―28 大阪経済大
桃山学院大 33―26 天理大
大阪体育大 38―14 関西外語大
近畿大 25―25 立命館大
桃山学院大 30―19 立命館大
近畿大 37―15 天理大
京都産業大 29―22 関西外語大
大阪体育大 26―18 大阪経済大
大阪経済大 36―14 立命館大
天理大 31―28 関西外語大
桃山学院大 26―20 大阪体育大
京都産業大 33―20 近畿大
大阪体育大 42―15 立命館大
桃山学院大 22―20 大阪経済大
京都産業大 29―20 天理大
近畿大 36―19 関西外語大

【順位】
①大阪体育大
②京都産業大
③桃山学院大
④大阪経済大
⑤近畿大
⑥立命館大
⑦天理大
⑧関西外国語大

■男子2部

神戸国際大 35―21 仏教大
同志社大 25―23 龍谷大
大阪大 34―22 神戸大
龍谷大 29―26 大阪大
神戸大 28―24 関西大
神戸国際大 37―26 関西大
神戸国際大 28―26 龍谷大
同志社大 46―20 仏教大
関西大 31―22 仏教大
神戸大 33―29 神戸国際大
関西大 29―27 龍谷大
同志社大 31―27 神戸大
大阪大 40―26 仏教大
神戸国際大 29―28 同志社大
同志社大 31―26 大阪大
龍谷大 32―26 神戸大
仏教大 32―27 龍谷大
大阪大 30―22 関西大
神戸大 37―28 仏教大
神戸国際大 29―27 大阪大
関西大 23―22 同志社大

【順位】
①神戸国際大
②同志社大
③大阪大
④龍谷大
⑤神戸大
⑥関西大
⑦仏教大

■男子3部

関西学院大 28―28 神戸学院大
大阪学院大 27―17 和歌山大
関西学院大 29―21 大阪学院大
和歌山大 23―20 甲南大
京都大 15―15 甲南大
甲南大 27―23 大阪学院大
神戸学院大 19―18 京都大
大阪学院大 27―20 神戸学院大
京都大 28―18 和歌山大
京都大 26―25 大阪教育大
大阪教育大 26―20 甲南大
和歌山大 22―21 神戸学院大
関西学院大 28―15 京都大
関西学院大 30―21 甲南大
関西学院大 34―21 大阪教育大
大阪教育大 28―24 和歌山大
京都大 24―21 大阪学院大
大阪教育大 22―20 神戸学院大
甲南大 35―19 神戸学院大
大阪学院大 28―22 大阪教育大
関西学院大 30―25 和歌山大

【順位】
①関西学院大
②京都大
③大阪学院大
④大阪教育大
⑤甲南大
⑥和歌山大
⑦神戸学院大

■男子4部

姫路獨協大 27―22 京都府医大
追手門学大 24―17 姫路獨協大
大阪市立大 23―17 大阪府立大
京都府医大 26―12 大阪産業大
大阪産業大 29―24 姫路獨協大
大阪市立大 31―23 大阪産業大
追手門学大 18―17 奈良大
大阪府立大 33―20 姫路獨協大
京都府医大 22―17 奈良大

京都府医大 24—24 追手門学大
追手門学大 21—17 大阪市立大
大阪府立大 28—22 奈良大
追手門学大 32—22 大阪産業大
大阪府立大 28—14 京都府医大
奈良大 25—17 大阪市立大
奈良大 20—17 大阪産業大
大阪府立大 27—26 追手門学大
大阪市立大 28—21 姫路獨協大
奈良大 31—27 姫路獨協大
大阪市立大 26—21 京都府医大
大阪府立大 25—16 大阪産業大

【順位】
①大阪府立大
②追手紋学院大
③大阪市立大
④奈良大
⑤京都府立医科大
⑥大阪産業大
⑦姫路獨協大

■男子5部
大阪工業大 30—16 大阪経法大
京大医学部 16—11 京都工繊大
奈良教育大 33—20 京都工繊大
大阪工業大 37—10 大阪外語大
滋賀大 27—22 大阪経法大
京都工繊大 19—17 大阪外語大
奈良教育大 28—26 大阪外語大
大阪経法大 棄権 大阪外語大
滋賀大 24—19 大阪工業大
滋賀大 40—15 大阪外語大
京大医学部 20—18 滋賀大
京大医学部 18—12 奈良教育大
大阪工業大 20—20 京大医学部
大阪工業大 27—21 奈良教育大
滋賀大 21—16 京都工繊大
京都工繊大 17—12 大阪経法大
京大医学部 29—15 大阪経法大
奈良教育大 25—22 滋賀大
大阪工業大 29—16 京都工繊大
京大医学部 37—16 大阪外語大
奈良教育大 32—18 大阪経法大

【順位】
①京都大学医学部
②大阪工業大
③滋賀大
④奈良教育大
⑤京都工芸繊維大
⑥大阪経済法科大
⑦大阪外国語大

■男子6部Aリーグ
甲子園大 31—12 兵庫教育大
京都教育大 37—14 兵庫教育大
京都教育大 25—16 近大農学部
大阪電通大 棄権 兵庫教育大
近大農学部 32—18 甲子園大
京都教育大 33—20 大阪電通大
近大農学部 18—13 兵庫教育大
近大農学部 不明 大阪電通大
京都教育大 25—16 甲子園大

■男子6部Bリーグ
京都外語大 棄権 大阪歯科大
大阪薬科大 棄権 大阪歯科大
京都外語大 22—21 京都府立大
京都府立大 棄権 大阪歯科大
京都外語大 31—13 大阪薬科大
神戸商船大 棄権 大阪歯科大
神戸商船大 20—10 京都外語大
神戸商船大 15—14 大阪薬科大
京都府立大 不明 大阪薬科大
神戸商船大 21—20 京都府立大

【順位決定戦】
兵庫教育大 棄権 大阪歯科大
甲子園大 棄権 大阪薬科大
京都府立大 26—20 大阪電通大
京都外語大 28—27 近大農学部
京都教育大 29—19 神戸商船大

【順位】
①京都教育大
②神戸商船大
③京都外国語大
④近畿大学農学部
⑤京都府立大
⑥大阪電気通信大
⑦甲子園大
⑧大阪薬科大
⑨兵庫教育大
⑩大阪歯科大

■女子1部
関西外語大 20—18 関西女短大
大阪体育大 35—14 天理大
武庫川女大 22—13 龍谷大
大阪体育大 33—10 龍谷大
武庫川女大 33—5 関西外語大
大阪教育大 31—20 天理大
大阪体育大 35—12 関西外語大
武庫川女大 40—7 関西女短大
大阪教育大 37—18 関西外語大
武庫川女大 37—13 天理大
龍谷大 31—17 関西女短大
大阪教育大 30—14 龍谷大
大阪体育大 38—7 関西女短大
天理大 27—9 関西外語大
大阪体育大 28—18 大阪教育大
武庫川女大 23—20 大阪教育大
天理大 33—16 関西女短大
天理大 27—24 龍谷大
大阪教育大 27—7 関西女短大
大阪体育大 19—17 武庫川女大
龍谷大 23—15 関西外語大

【順位】
①大阪体育大
②武庫川女子大
③大阪教育大
④天理大
⑤龍谷大
⑥関西外国語大
⑦関西女子短期大

■女子2部
成蹊女短大 30—10 関西学院大
立命館大 21—15 奈良女子大
京都教育大 18—16 園田学女大
成蹊女短大 28—2 奈良女子大
園田学女大 16—10 関西大
立命館大 21—10 関西大
園田学女大 21—7 奈良女子大
立命館大 35—13 関西学院大
関西大 17—7 奈良女子大
立命館大 20—12 園田学女大
京都教育大 23—15 関西学院大
成蹊女短大 14—9 園田学女大
園田学女大 26—17 関西学院大
京都教育大 18—17 関西大
関西大 18—11 関西学院大
成蹊女短大 22—12 京都教育大
京都教育大 28—11 奈良女子大
立命館大 26—15 成蹊女短大
成蹊女短大 18—7 関西大
立命館大 34—17 京都教育大
関西学院大 20—16 奈良女子大

【順位】
①立命館大
②大阪成蹊女子短期大
③京都教育大
④園田学女子大
⑤関西大
⑥関西学院大
⑦奈良女子大

■女子3部
大阪大 29—7 和歌山大
大阪大 34—9 大阪府立大
滋賀大 15—3 大阪府立大
大阪市立大 9—8 追手門学大
滋賀大 9—4 追手門学大
滋賀大 15—6 大阪市立大
大阪大 18—3 大阪市立大
和歌山大 17—11 大阪府立大
大阪大 22—10 追手門学大
滋賀大 18—9 和歌山大
和歌山大 13—11 追手門学大
大阪大 17—10 滋賀大
大阪市立大 11—9 和歌山大
追手門学大 16—7 大阪府立大
大阪市立大 7—5 大阪府立大

【順位】
①大阪大
②滋賀大
③大阪市立大
④和歌山大
⑤追手門学院大
⑥大阪府立大

■女子4部
甲南大 10—10 兵庫教育大
神戸大 19—6 甲南大
大阪外語大 20—2 奈良教育大
兵庫教育大 12—4 大阪外語大
甲南大 12—10 大阪薬科大
神戸大 14—10 奈良教育大
大阪外語大 棄権 京都女子大
奈良教育大 18—18 京都女子大
甲南大 10—6 大阪外語大
神戸大 16—12 兵庫教育大
神戸大 26—8 大阪薬科大
大阪薬科大 7—7 兵庫教育大
甲南大 23—10 京都女子大
大阪薬科大 棄権 京都女子大
神戸大 35—10 京都女子大
兵庫教育大 26—7 京都女子大
兵庫教育大 14—6 奈良教育大
大阪薬科大 20—10 奈良教育大
神戸大 19—7 大阪外語大
大阪薬科大 14—13 大阪外語大
甲南大 12—10 奈良教育大

【順位】
①神戸大
②甲南大
③大阪薬科大
④兵庫教育大
⑤大阪外国語大
⑥奈良教育大
⑦京都女子大

世界のスーパープレーを1人占め！

品番	カード			
WM①	予選リーグA	○アイスランド	24―20	日本●
②	〃	○リトアニア	27―18	サウジアラビア●
③	〃	○ユーゴスラビア	22―19	日本●
④	〃	○アルジェリア	27―27	アイスランド●
⑤	予選リーグB	○フランス	25―21	イタリア●
⑥	〃	△韓国	21―21	ノルウェー△
⑦	〃	○スウェーデン	36―17	アルゼンチン●
⑧	予選リーグC	○ポルトガル	26―18	ブラジル●
⑨	〃	○エジプト	24―22	チェコ●
⑩	〃	○スペイン	32―21	チュニジア●
⑪	予選リーグD	○ロシア	31―17	キューバ●
⑫	〃	○クロアチア	34―21	中国●
⑬	〃	○ハンガリー	25―19	モロッコ●
⑭	予選リーグA	○ユーゴスラビア	29―21	リトアニア●
⑮	〃	○アルジェリア	19―14	サウジアラビア●
⑯	予選リーグD	○ロシア	34―15	中国●
⑰	〃	○クロアチア	26―17	モロッコ●
⑱	予選リーグB	○韓国	27―26	フランス●
⑲	〃	○スウェーデン	24―17	ノルウェー●
⑳	予選リーグC	○チェコ	24―10	ブラジル●
㉑	〃	△エジプト	19―19	スペイン△
㉒	予選リーグA	○日本	23―20	サウジアラビア●
㉓	予選リーグB	△イタリア	19―19	ノルウェー●
㉔	〃	○フランス	24―20	アルゼンチン●
㉕	予選リーグC	○チュニジア	19―18	ポルトガル●
㉖	〃	○スペイン	32―11	ブラジル●
㉗	予選リーグD	○ロシア	30―13	モロッコ●
㉘	〃	○ハンガリー	22―21	キューバ●
㉙	予選リーグA	△リトアニア	19―19	アルジェリア△
㉚	〃	○アイスランド	27―18	ユーゴスラビア●
㉛	予選リーグB	○イタリア	21―15	アルゼンチン●
㉜	〃	○スウェーデン	36―21	韓国●
㉝	予選リーグC	○エジプト	24―17	チュニジア●
㉞	〃	○チェコ	28―24	ポルトガル●
㉟	予選リーグD	○キューバ	32―21	中国●
㊱	〃	○ハンガリー	23―20	クロアチア●
㊲	予選リーグA	○ユーゴスラビア	32―20	サウジアラビア●
㊳	〃	○日本	24―14	アルジェリア●
㊴	〃	○アイスランド	21―19	リトアニア●
㊵	予選リーグB	○韓国	32―22	アルゼンチン●
WM㊶	〃	○フランス	23―20	ノルウェー●
㊷	〃	○スウェーデン	19―17	イタリア●
㊸	予選リーグC	○エジプト	33―11	ブラジル●
㊹	〃	○チェコ	19―18	チュニジア●
㊺	〃	○スペイン	29―26	ポルトガル●
㊻	予選リーグD	○中国	25―21	モロッコ●
㊼	〃	△クロアチア	23―23	キューバ△
㊽	〃	○ロシア	24―19	ハンガリー●
㊾	予選リーグA	○アイスランド	25―22	サウジアラビア●
㊿	〃	○リトアニア	24―15	日本●
(51)	〃	○ユーゴスラビア	28―24	アルジェリア●
(52)	予選リーグB	○韓国	27―22	イタリア●
(53)	〃	○ノルウェー	27―22	アルゼンチン●
(54)	〃	○フランス	29―26	スウェーデン●
(55)	予選リーグC	○チュニジア	17―15	ブラジル●
(56)	〃	○エジプト	29―25	ポルトガル●
(57)	〃	○スペイン	29―26	チェコ●
(58)	予選リーグD	○キューバ	35―20	モロッコ●
(59)	〃	○ハンガリー	39―19	中国●
(60)	〃	○ロシア	31―20	クロアチア●
(61)	決勝トーナメント	○アイスランド	32―28	ノルウェー●
(62)	〃	○韓国	37―33	ユーゴスラビア●
(63)	〃	○スウェーデン	32―20	リトアニア●
(64)	〃	○フランス	22―21	日本●
(65)	〃	○スペイン	31―25	クロアチア●
(66)	〃	○エジプト	24―20	キューバ●
(67)	〃	○ハンガリー	20―19	チェコ●
(68)	〃	○ロシア	20―14	チュニジア●
(69)	準々決勝	○ハンガリー	26―25	アイスランド●
(70)	〃	○ロシア	32―15	韓国●
(71)	〃	○スウェーデン	28―24	スペイン●
(72)	〃	○フランス	22―19	エジプト●
(73)	順位決定予備戦	○アイスランド	32―23	スペイン●
(74)	〃	○エジプト	28―27	韓国●
(75)	5―6位決定戦	○アイスランド	23―20	エジプト●
(76)	準決勝	○スウェーデン	31―19	ハンガリー●
(77)	7―8位決定戦	○スペイン	33―26	韓国●
(78)	準決勝	○ロシア	25―24	フランス●
(79)	3―4位決定戦	○フランス	28―27	ハンガリー●
(80)	決勝戦	○ロシア	23―21	スウェーデン●

このシリーズはＮＨＫが全世界に向けて制作したテレビ映像をビデオ化したもので、10台のカメラを駆使して撮影され、シュートシーンなど好プレーのスロービデオもふんだんに盛り込まれています。

シリーズ	内容	品番	価格（税別）
A：がんばれニッポン！	健闘日本を中心にセレクト	①③㉒㊳㊿(64)(71)(74)(78)(80)	10本セット＝50,000円
B：興奮クライマックス	終盤の激戦をピックアップ	(62)(64)(66)(67)(69)(71)(72)(78)(79)(80)	10本セット＝50,000円
C：熱戦パーフェクト	絶対におすすめの豪華版！	④⑱㉑㉕㊱㊼(54)(62)(64)(65)(67)(69)(71)(78)(80)	15本セット＝75,000円
D：お好みチョイス	大会80ゲームのすべてのリクエストに対応します！		1本につき5,500円

※送料は何巻でも500円です

■支払方法／現金書留、郵便振替または銀行振り込みによる前払いです（宅急便・着払いもあり）。
■分割払い／信販会社を通じての分割払いやボーナス時一括払いも受け付けています。

●お申し込みは下記の申し込み用紙をコピーの上、日本ハンドボール協会（ＦＡＸ03-3481-2367・ＴＥＬ03-3481-2361）またはスポーツイベント（ＦＡＸ03-5259-7339・ＴＥＬ03-3294-5231）までＦＡＸでお送り下さい。シリーズにチョイス（1本につき5500円プラス）を加えることも可能。電話でも受け付けています。すべてのお問い合わせはスポーツイベントが承ります。

◆世界選手権ビデオ発売元／㈱スポーツイベント　〒101 東京都千代田区神田小川町1―9　川上ビル3階
ＴＥＬ03-3294-5231（代）／ＦＡＸ03-5259-7339／郵便振替・00140-5-11951

世界選手権ビデオ申し込み書

ご住所：〒

お名前：

ご自宅電話番号：

連絡先電話番号：

職　業：

年　令：

（シリーズ名を明記して下さい）　シリーズを（代金　　円）購入します。

（品番を明記して下さい）　をチョイスで（代金　　円）購入します。

合計　　円

CS放送にて世界選手権放映中!!

スカイAにて、世界選手権大会の映像をソースとして、ハンドボールのゲームを放映しています。番組の基本編成では表のように、レギュラーとして基本的に火曜日、木曜日の午後11時から、土曜日は11時30分よりそれぞれ1時間半放映されています。そのほかに再放送として午後3時45分より放映されています。番組編成の都合上、時間がずれているときもありますが、基本的にはこのような時間帯で来年3月いっぱい放映される予定です。正確にはその月の番組表でお確かめ下さい。都合で熊本まで行かれなかった人はぜひ、この機会に世界選手権を堪能して下さい。

日本リーグも9月に開幕し混戦模様で活気を呈していますが、以下のようにTVKにおいて放映されます。12月、1月の放映予定表を掲載いたしますのでぜひご覧になって下さい。

スカイA番組基本編成

火曜日	（再）15時45分～17時15分	（レギュラー）23時00分～24時30分
木曜日	（再）15時45分～17時15分	（レギュラー）23時00分～24時30分
土曜日	（再）15時00分～16時00分	（レギュラー）23時30分～25時00分

スカイA12月放映予定

2日	アイスランド×ユーゴ	18日	サウジアラビア×ユーゴ
4日	アルゼンチン×イタリア	20日	アルジェリア×日本
6日	韓国×スウェーデン	23日	リトアニア×アイスランド
9日	エジプト×チュニジア	25日	韓国×アルゼンチン
11日	チェコ×ポルトガル	27日	ノルウェー×フランス
13日	中国×キューバ	30日	スウェーデン×ロシア
16日	クロアチア×ハンガリー		

日本リーグ放映予定（TVK）

12月17日(水)	中村荷役×湧永製薬	19時30分～20時55分（東京体育館）
12月18日(木)	三陽商会×大同特殊鋼	19時30分～20時55分（東京体育館）
1月10日(土)	三景×トクヤマ	16時35分～18時00分（駒沢体育館）
	三陽商会×湧永製薬	18時30分～20時00分（駒沢体育館）
1月11日(日)	中村荷役×日新製鋼	16時35分～18時00分（駒沢体育館）
1月18日(日)	イズミ×オムロン	16時35分～18時00分（広島）
1月21日(水)	日新製鋼×北陸電力	19時30分～20時55分（広島）
1月22日(木)	湧永製薬×大同特殊鋼	19時30分～20時55分（広島）

CONTENTS 12月号

12月の行事予定

12月4日～7日／第49回全日本総合選手権大会（男子）（東京体育館）
12月20日～23日／第49回全日本総合選手権大会（女子）（神戸グリーンアリーナ）
12月26日～27日／第6回JOCジュニアカップ（堺市・金岡公園体育館他）
12月13日／常務理事会

■12月・1月日本リーグ日程（一部のみ）

12月13日(土)
(男子) 大同×本田（名古屋）
(男子) 北電×中村（松岡町）
(男子) 日新×三陽、湧永×大崎（甲田町）
12月17日(水)
(男子) 三陽×大同、中村×湧永（東京）
12月20日(土)
(男子) 大崎×日新（志木）
12月21日(日)
(男子) 本田×北電（鈴鹿）
12月23日(火)
(男子) 大崎×中村（浦和）
(男子) 北電×三陽（松岡町）
(男子) 日新×大同（呉）
(男子) 湧永×本田（福岡）
1月6日(火)
(女子) 立山×大和（高岡）
(女子) 北国×日立（松山）
(女子) オムロン×ジャスコ（山鹿）
1月8日(木)
(女子) イズミ×大崎（広島）
1月10日(土)
(男子) 三陽×湧永、中村×日新（東京）
(男子) 本田×大崎（富士宮）
(女子) ジャスコ×大崎（富士宮）
1月11日(日)
(男子) 大同×北電（名古屋）
(女子) 日立×イズミ（栃木）
(女子) 大和×北国（生駒）
(女子) オムロン×立山（大分）
1月15日(木)
(男子) 中村×本田（徳山）
(女子) 日立×オムロン（東根）
(女子) 大和×イズミ（堺）
(女子) ジャスコ×立山（徳山）
(女子) 大崎×北国（浦添）
1月17日(土)
(男子) 大崎×三陽（川越）
(女子) 大崎×日立（川越）
(女子) 大和×ジャスコ（堺）
1月18日(日)
(男子) 日新×北電、湧永×大同（広島）
(女子) 北国×立山（金沢）
(女子) イズミ×オムロン（広島）
1月24日(土)
(男子) 大同×大崎（名古屋）
(男子) 本田×日新（四日市）
(女子) ジャスコ×北国（四日市）
1月25日(日)
(男子) 三陽×中村（府中）
(男子) 北電×湧永（福井）
(女子) 日立×大和（栃木）
(女子) 立山×イズミ（福井）
(女子) オムロン×大崎（宮崎）
1月28日(水)
(女子) 大崎×大和（志木）
(女子) 立山×日立、北国×オムロン（小松）
1月29日(木)
(女子) イズミ×ジャスコ（広島）
1月31日(土)
(男子) 大崎×北電（浦和）
(女子) 大崎×立山（浦和）
(女子) 大和×オムロン（守口）

MIKASA®
明星ゴム工業株式会社

HAND BALLS

国際公認球

アデランテ 前進





ホワイト／ブラック



ホワイト／ピンク

PKCH3-AD　¥4,600
検定球3号，国際公認球，アデランテ，手縫い
一般・大学・高校・男子用，天然皮革
パキスタン製

PKCH2-AD　¥4,500
検定球2号，国際公認球，アデランテ，手縫い
一般・大学・高校・女子用，中学校用，
天然皮革，パキスタン製



ホワイト／ブラック



ホワイト／ブルー



ホワイト／ブラック



ホワイト／ピンク

PKCH3-BS　¥4,000
検定球3号，ビッグシュート，手縫い
一般・大学・高校・男子用，人工皮革，
パキスタン製

PKCH2-BS　¥3,800
検定球2号，ビッグシュート，手縫い
一般・大学・高校・女子用，中学校用，
人工皮革，パキスタン製

NEW



NEW



PKCH3-SRT　¥5,600
検定球3号，スエルテ，48枚パネル，手縫い
一般・大学・高校・男子用，天然皮革
パキスタン製

PKCH2-SRT　¥5,500
検定球2号，スエルテ，48枚パネル，手縫い
一般・大学・高校・女子用，中学校用，
天然皮革，パキスタン製

PKCH3-ADR　¥2,800
練習球3号，アデランテ，　手縫い
一般・大学・高校・男子用，合成ゴム
パキスタン製

MIKASA®
明星ゴム工業株式会社

本　社	／〒733	広島市西区楠木町3丁目11-2	TEL082（237）5145
東京営業所	／〒111	東京都台東区松が谷1丁目5-14	TEL03（3843）4671
大阪営業所	／〒543	大阪市天王寺区東高津町1-6	TEL06（761）8441
大阪物流センター	／〒577	東大阪市西堤本通東3-4	TEL06（781）4845
広島営業所	／〒733	広島市西区楠木町3丁目11-2	TEL082（237）4772
名古屋営業所	／〒460	名古屋市中区千代田2丁目24-8	TEL052（251）2381
福岡営業所	／〒812	福岡市博多区東比恵4丁目12-9	TEL092（431）6950
仙台営業所	／〒984	仙台市若林区卸町東4丁目1-8	TEL022（288）2361

(財)日本ハンドボール協会編　『ハンドボール』　第三八一号
昭和四十年六月七日　第三種郵便物認可
平成九年十一月二十六日印刷　平成九年十二月一日発行
東京都渋谷区神南一－一－一
電話　代表　三四八一－二三六一
振替　〇〇一二〇－七－一〇二九三
編集兼発行人　中澤重夫
価格は登録金に含む